

**Oracle® Universal Content Management**

Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド

10g リリース 4 (10.1.4)

部品番号 : B54366-01

2009 年 5 月

Oracle Universal Content Management Site Studio 管理者およびマネージャ・ガイド, 10g リリース 4 (10.1.4)

部品番号 : B54366-01

原本名 : Oracle Universal Content Management Site Studio Administrator and Manager Guide, 10g Release 4 (10.1.4)

原本著者 : Sean Cearley, Ron van de Crommert

原本協力者 : Brian Cheyne

Copyright ©1996, 2009, Oracle. All rights reserved.

#### 制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空、大量輸送、医療あるいはその他の本質的に危険を伴うアプリケーションで使用されることを意図しておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありえます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

---

---

# 目次

はじめに .....	v
対象読者 .....	vi
ドキュメントのアクセシビリティについて .....	vi
関連ドキュメント .....	vi
表記規則 .....	vi
サポートおよびサービス .....	vii
<b>1 概要</b>	
1.1 Site Studio ソフトウェア・スイート .....	1-2
1.2 Site Studio ユーザー .....	1-3
1.3 Site Studio 公開モデル .....	1-3
1.3.1 手順 1: デザイナでのサイトの作成 .....	1-3
1.3.2 手順 2: マネージャでのサイトの管理 .....	1-5
1.3.3 手順 3: コントリビュータでのコンテンツの追加および編集 .....	1-6
1.3.4 手順 4: 完成した Web サイトのプレビューおよび配置 .....	1-7
1.4 Site Studio 管理 .....	1-7
<b>2 Web サイトの管理</b>	
2.1 Web サイトの管理の概要 .....	2-2
2.2 Web サイトの表示 .....	2-2
2.3 Web サイト・ナビゲーションの更新 .....	2-2
2.4 Web サイト・オブジェクト・レポートの表示 .....	2-3
2.5 Site Studio マネージャの使用 .....	2-3
2.5.1 Site Studio マネージャの起動 .....	2-4
2.5.2 セクションの追加 .....	2-4
2.5.3 セクションの削除 .....	2-5
2.5.4 セクションの移動 .....	2-6
2.5.5 セクション・プロパティの編集 .....	2-7
2.5.6 セクション名の変更 .....	2-7
2.5.7 Web サイトへのセクションの表示または非表示 .....	2-8
2.5.8 コントリビュータ専用としてのセクションの指定 .....	2-9
2.5.9 エラー・ハンドラとしてのセクションの指定 .....	2-9
2.5.10 セクションまたはページに関連付けられた URL の変更 .....	2-10
2.5.11 セクションの最大経過時間の変更 .....	2-10
2.5.12 カスタム・プロパティの変更 .....	2-11
2.5.13 ページ・テンプレートのプレビュー .....	2-11

2.5.14	セクションへのプライマリ・ページの割当て .....	2-12
2.5.15	セクションへの外部 URL の割当て .....	2-12
2.5.16	セクションへのセカンダリ・ページの割当て .....	2-13
2.5.17	セクションからのページ・テンプレートの削除 .....	2-13
2.5.18	ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページの表示 .....	2-14
2.6	Web サイトの開始および停止 .....	2-14
2.7	Web サイトのロード .....	2-15

### 3 Web サイト・アドレスの管理

3.1	Web サイト・アドレスの概要 .....	3-2
3.2	Web サイト・アドレスの追加 .....	3-2
3.3	デフォルトの Web アドレスの選択および選択解除 .....	3-3
3.4	Web サイト・アドレスの削除 .....	3-4

### 4 フラグメント・ライブラリの管理

4.1	フラグメント・ライブラリの概要 .....	4-2
4.2	サーバー上へのフラグメント・ライブラリのデプロイ .....	4-2
4.3	サーバー上での JSP フラグメントの構成 .....	4-3

### 5 デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定

5.1	デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の概要 .....	5-2
5.2	デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定 .....	5-2

### 6 サイト・レプリケーションの管理

6.1	サイト・レプリケーションの概要 .....	6-2
6.2	レプリケーション・プロセス .....	6-2
6.3	レプリケートの内容 .....	6-3
6.4	含まれるリビジョン .....	6-3
6.5	追加のエクスポート設定 .....	6-4
6.6	レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成 .....	6-4
6.7	ソース・サーバー上での送信プロバイダの設定 .....	6-5
6.8	ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブの設定 .....	6-6
6.9	ソース・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの設定 .....	6-7
6.10	サイト・レプリケーションの開始 .....	6-8

### 7 Web サイトのバックアップおよびリストア

7.1	バックアップとリストアの概要 .....	7-2
7.2	サイトのバックアップ .....	7-2
7.3	サイトのリストア .....	7-4
7.4	サーバー構成の詳細の表示 .....	7-6

### 8 一般コンポーネント情報

8.1	一般コンポーネント情報の概要 .....	8-2
8.2	一般コンポーネント情報の表示 .....	8-2

## A ユーザー・インタフェース

A.1	「Manage Web Sites」 ページ .....	A-2
A.2	「Manage Site Page」 ページ (Site Studio マネージャ) .....	A-3
A.2.1	「Section」 タブ .....	A-4
A.2.2	「Page Template」 タブ .....	A-6
A.2.3	「Secondary Page Template」 タブ .....	A-7
A.2.4	「Custom Properties」 タブ .....	A-8
A.3	「Web Site Objects Report」 ページ .....	A-9
A.4	「Web Site Addresses」 ページ .....	A-10
A.5	「Manage Fragment Libraries」 ページ .....	A-11
A.6	「Set Default Project Document Information」 ページ .....	A-12
A.7	「Manage Site Replication」 ページ .....	A-13
A.8	「Add Export Archive」 ページ .....	A-15
A.9	「Edit Export Archive」 ページ .....	A-16
A.10	「Add Import Archive」 ページ .....	A-18
A.11	「Edit Import Archive」 ページ .....	A-20
A.12	「General Component Information」 ページ .....	A-22
A.13	「Backup and Restore」 ページ .....	A-23
A.14	「Web Site Backup Archives」 ページ .....	A-24
A.15	「Backup Archive Information」 ページ .....	A-25
A.16	「Server Configuration Details」 ページ .....	A-26

## 索引



---

---

## はじめに

このマニュアルには、**Content Server** インタフェースを使用して実行できる **Site Studio** のすべてのタスクについての情報が記載されています。タスクには、管理タスク（サイトのレプリケート、サイトのバックアップなど）およびサイト・デザイナーが承認するサイトの管理に関連するタスク（セクションの追加、プライマリおよびセカンダリ・キーの割り当てなど）が含まれます。

## 対象読者

このマニュアルは、Site Studio で管理している、組織の Web サイトの管理担当者を対象としています。

## ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

### ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

### 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

### Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。アメリカ国外からの場合は、+1-407-458-2479 にお電話ください。

## 関連ドキュメント

詳細は、Site Studio ドキュメント・セットの次のドキュメントを参照してください。

- 『Oracle Site Studio インストラクション・ガイド』
- 『Oracle Site Studio コントリビュータ・ガイド』
- 『Oracle Site Studio デザイナ・ガイド』
- 『Oracle Site Studio リリース・ノート』

## 表記規則

このマニュアルでは次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素、または本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。
イタリック体	イタリックは、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。



# サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

## Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/support/index.html>

## 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/index.html>

## 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

[http://education.oracle.com/pls/web\\_prod-plq-dad/db\\_pages.getpage?page\\_id=3](http://education.oracle.com/pls/web_prod-plq-dad/db_pages.getpage?page_id=3)

## その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.com/lang/jp/index.html>

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/index.html>

---

---

**注意：** ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

---

---



Site Studio は、エンタープライズ規模の Web サイトの包括的な設計、作成および管理を可能にする強力な柔軟な Web 開発アプリケーション・スイートです。Site Studio は、Web サイトの作成とコンテンツ管理が一体化されている点が、従来型の HTML エディタやスクリプト・エディタより優れています。

Site Studio では、Web サイト開発および管理プロセスに、別のサイト・ロール（デザイナー、コントリビュータ、マネージャ、管理者）向けのアプリケーション、管理可能なサイト階層、再利用可能なサイト・アセットとコンテンツ、フラグメント、および編集可能なサイト・リージョンなどの概念が導入されています。一緒に使用すると、エンタープライズ規模の Web サイトによくあるボトルネックが存在しない Web サイトを作成できます。

次の項で、Site Studio の詳細を説明します。

- 1-2 ページの「[Site Studio ソフトウェア・スイート](#)」
- 1-3 ページの「[Site Studio ユーザー](#)」
- 1-3 ページの「[Site Studio 公開モデル](#)」
- 1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」

## 1.1 Site Studio ソフトウェア・スイート

Site Studio には様々なコンポーネントがあり、コンテンツ・サーバーで動作するものやクライアント・コンピュータで動作するものがあります。コンポーネントを使用すると、組織は、適切なタイミングでシームレスに Web サイトを作成、管理および配置できます。組織は、サイトを担当している各ユーザーのロールを作成および変更できます。

これを実現するため、Site Studio は次のコンポーネントで構成されています。

Site Studio 製品	説明
Content Server コンポーネント	<p>まずこのコンポーネントをコンテンツ・サーバーにインストールする必要があります。Web サイトが機能するために必要です。このコンポーネントには多様なサーバー側機能が用意されており、クライアント（デザイナー）やサイトのその他のコンポーネントと通信します。</p> <p>このコンポーネントは、サイト管理者が Web サイトの管理タスクで使用する Site Studio 管理インターフェースも提供します。1-7 ページの「<a href="#">Site Studio 管理</a>」を参照してください。</p>
Site Studio デザイナ	<p>サイト・デザイナーが、ページ・テンプレートの定義、編集可能ページ・リージョンの設定など、Web サイトの作成および設計を行う開発環境を提供するクライアント側アプリケーションです。詳細は、『<a href="#">Site Studio デザイナ・ガイド</a>』を参照してください。</p>
Site Studio マネージャ	<p>セクションの追加や削除、セクションに割り当てられたレイアウト・ページの変更、サイト・プロパティの変更など、サイト・マネージャがサイト階層の変更を行う環境を提供する Web ベースのアプリケーションです。詳細は、2-3 ページの「<a href="#">Site Studio マネージャの使用</a>」を参照してください。</p>
Site Studio コントリビュータ	<p>コントリビュータが既存の Web サイトの Web ページへの追加や編集を実行できる、コンテキスト内編集環境を提供するクライアント側アプリケーションです。詳細は、『<a href="#">Site Studio コントリビュータ・ガイド</a>』を参照してください。</p>

各アプリケーションは独立していますが、緊密に統合されています。デザイナーで実行されたタスクはマネージャやコントリビュータに影響し、マネージャで実行されたタスクはコントリビュータに影響します。マネージャを使用するユーザーは、時にコントリビュータも使用します。

## 1.2 Site Studio ユーザー

Site Studio には、3 タイプのユーザーが、Web サイトの作成および管理を行える環境が用意されています。

- **デザイナー**: Web マスターまたは Web 開発者。このユーザーは、サイトの作成、ページ・テンプレートの設計、フラグメントの追加や編集、編集可能または管理可能なサイト領域の指定を担当します。
- **マネージャ**: 課または部署の管理者。このユーザーは、サイトの構造、セクションの変更、領域の作成、ページ・テンプレートの再割当てなどを担当します。
- **コントリビュータ**: 営業または販売チームのメンバー。このユーザーは、サイトに表示されるコンテンツの追加および編集を担当します。

通常、1人のデザイナーが複数のマネージャと作業し、各マネージャは1人以上のコントリビュータと作業します。デザイナーが、サイト階層の作成やコンテンツの配置場所の決定を行うマネージャにサイトを委任する場合があります。マネージャは、サイト・ページのコンテンツの更新（または作成）を開始することをコントリビュータに通知します。

---

---

**注意:** 組織の大きさおよび構造により、1人が複数のロールを持つ場合があります。

---

---

これらの Site Studio ロールに加え、サイトへの Web アドレスの割当て、サイトのバックアップ、サイトのレプリケートなどを担当する **サイト管理者** が個別にいる場合もあります。これらの管理タスクはすべてコンテンツ・サーバーで実行されます。

## 1.3 Site Studio 公開モデル

Site Studio は、デザイナー、マネージャおよびコントリビュータの3つのユーザー・モデルを中心に設計されています。デザイナーはサイトを作成し、マネージャはサイトを運営し、コントリビュータはサイトのコンテンツを追加および編集します。このモデルを使用すると、組織は簡単および効率的にサイトを作成して運営し、組織内のユーザーは、大規模な Web サイトによくあるボトルネックなしに迅速にコンテンツを更新できます。

実行されるタスクと、各タスクの実行に使用されるアプリケーションのサマリーを次に示します。

- [手順 1: デザイナーでのサイトの作成](#)
- [手順 2: マネージャでのサイトの管理](#)
- [手順 3: コントリビュータでのコンテンツの追加および編集](#)
- [手順 4: 完成した Web サイトのプレビューおよび配置](#)

---

---

**注意:** 組織は必要に応じて、このモデルに従うことも、独自の公開モデルを使用することもできます。

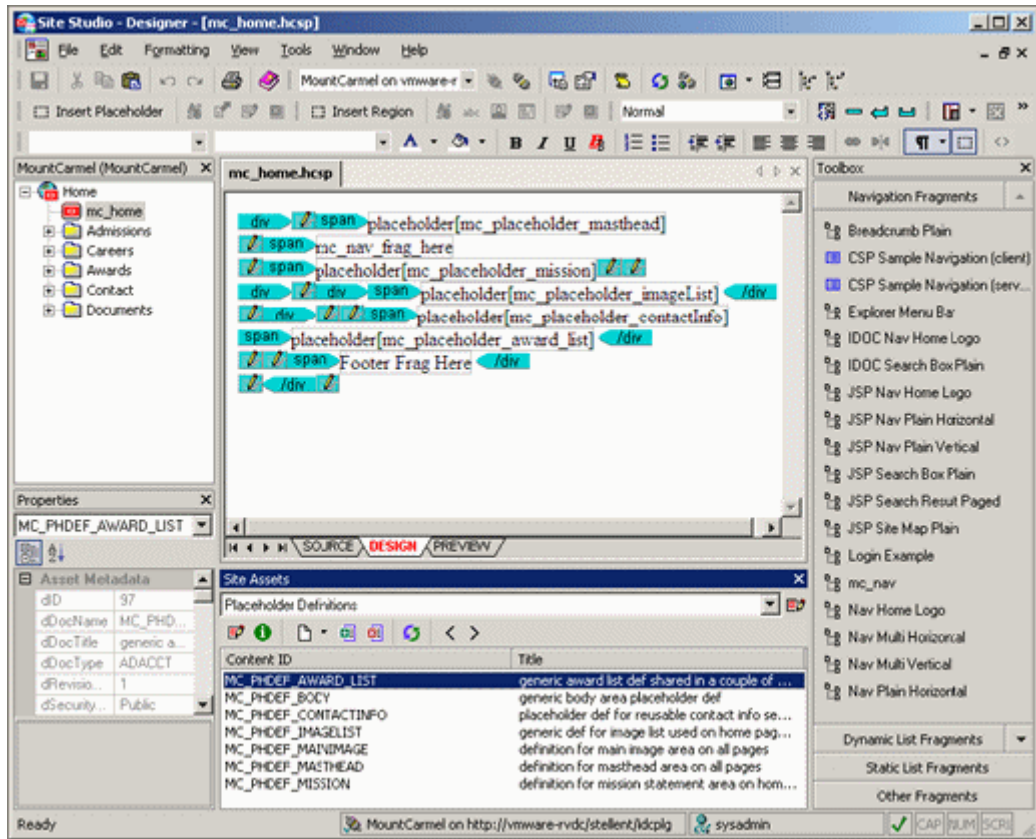
---

---

### 1.3.1 手順 1: デザイナーでのサイトの作成

サイトのデザイナーは、サイトをホスティングしているサーバーへのサイト接続、サイト名およびサイト・アドレスの作成からプロセスを開始します。次に、デザイナーは、サイト・アセット（プレースホルダ、ページ・テンプレート、要素定義など）を定義し、これらのアセットに基づいてサイトを作成します（このタスクがマネージャに委任されている場合を除く）。このとき、サイト階層も作成します。これらのタスクはすべて Site Studio デザイナーで実行されます。

図 1-1 デザイナ・アプリケーション



完了したら、デザイナーからサイト・マネージャおよびサイト・コントリビュータに、サイトが作成され、管理および編集が必要であることが通知されます。デザイナーはこれを実行するため、サイトのコントリビュータ専用セクションに指示を出すか、ワークフローまたは組織標準の手順に準拠した別のメソッドを使用してより形式的なプロセスを実装します。

---

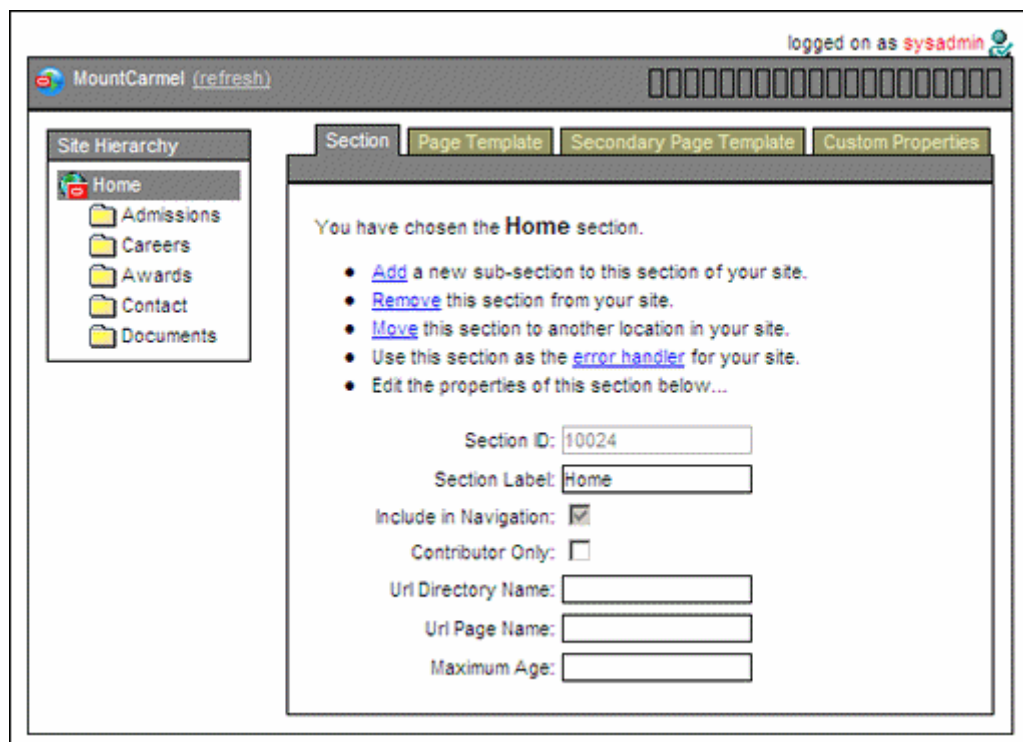
**注意：** Site Studio デザイナ・アプリケーションの詳細は、『Site Studio デザイナ・ガイド』を参照してください。

---

## 1.3.2 手順 2: マネージャでのサイトの管理

マネージャがサイトの場所を入力すると、サイト設計がほとんど完成します（つまり、サイト・ページのロック・アンド・フィール）。マネージャは、定義されたサイト階層の確認と変更（デザイナーが階層を設定している場合）、セクションの追加と変更、サイト・ページへのテンプレートの割当ておよびサイト・プロパティの設定ができます。これらのタスクはすべて Site Studio マネージャで実行されます。

図 1-2 マネージャ・アプリケーション



サイト・デザイナーがどのように設定したかにより、マネージャ・アプリケーションをサイトのすべてのページで使用できるか、専用のセクションでのみ使用できるかが異なります。Content Server のユーザー・インタフェースの Site Studio 管理ページから開くこともできます。

完了したら、マネージャは 1 人以上のコントリビュータに、サイトのコンテンツの追加および編集を開始できることを通知します。マネージャは、サイトのコントリビュータ専用セクションに指示を渡すか、ワークフローまたは組織標準の手順に準拠した別のメソッドを使用してより形式的なプロセスを実装します。

---

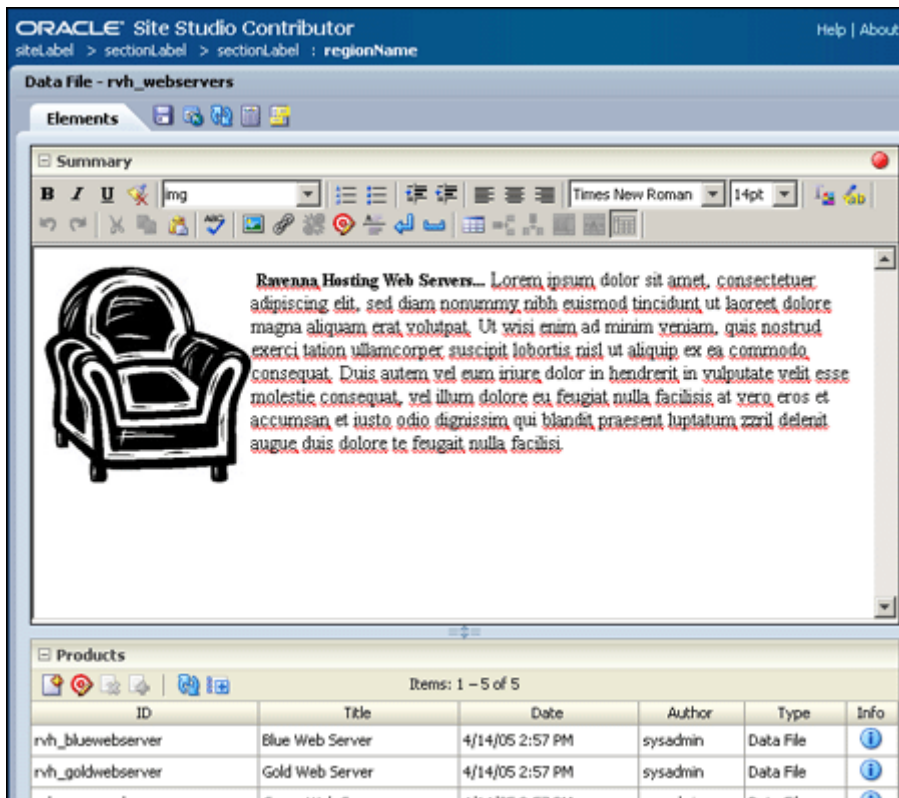
**注意：** Site Studio マネージャ・アプリケーションの詳細は、第 2 章「Web サイトの管理」を参照してください。

---

### 1.3.3 手順 3: コントリビュータでのコンテンツの追加および編集

コントリビュータが作業を開始する際には、サイト階層全体にコンテンツを配置できるようになっています。コントリビュータは、サイトの各ページに表示されるコンテンツを追加および編集できます。つまり、テキスト、グラフィック、リスト、ページへのリンクなどの作業が可能です。これらのタスクはすべて Site Studio コントリビュータで実行されます。

図 1-3 コントリビュータ・アプリケーション



デザイナーおよびマネージャがサイトをどのように設定したかにより、コントリビュータの作業内容は、ページや Web サイトごとに異なります。コントリビュータ・アプリケーションのみで作業すること（コントリビュータ・データファイルを編集する場合）も、サード・パーティ・アプリケーションのみで作業すること（ネイティブ・ドキュメントを編集する場合）もあります。また、Site Studio コントリビュータで、多数のオプションが有効化されている場合も無効化されている場合もあります。

完了したら、コントリビュータはその他のコントリビュータまたはレビューアに、ページを追加または編集したことを通知します。コントリビュータ専用セクションで相互にやりとりするか、ワークフローまたは組織標準の手順に準拠した別のメソッドの形式的な確認プロセスに従います。

---

**注意：** Site Studio コントリビュータ・アプリケーションの詳細は、『Site Studio コントリビュータ・ガイド』を参照してください。

---



### 1.3.4 手順 4: 完成した Web サイトのプレビューおよび配置

全員の作業が完了したら、完成した Web サイトを公開できます。ユーザーにサイトを配布するには、サイト消費専用のサーバーにレプリケートする必要があります。

図 1-4 公開版の Web ページ



## 1.4 Site Studio 管理

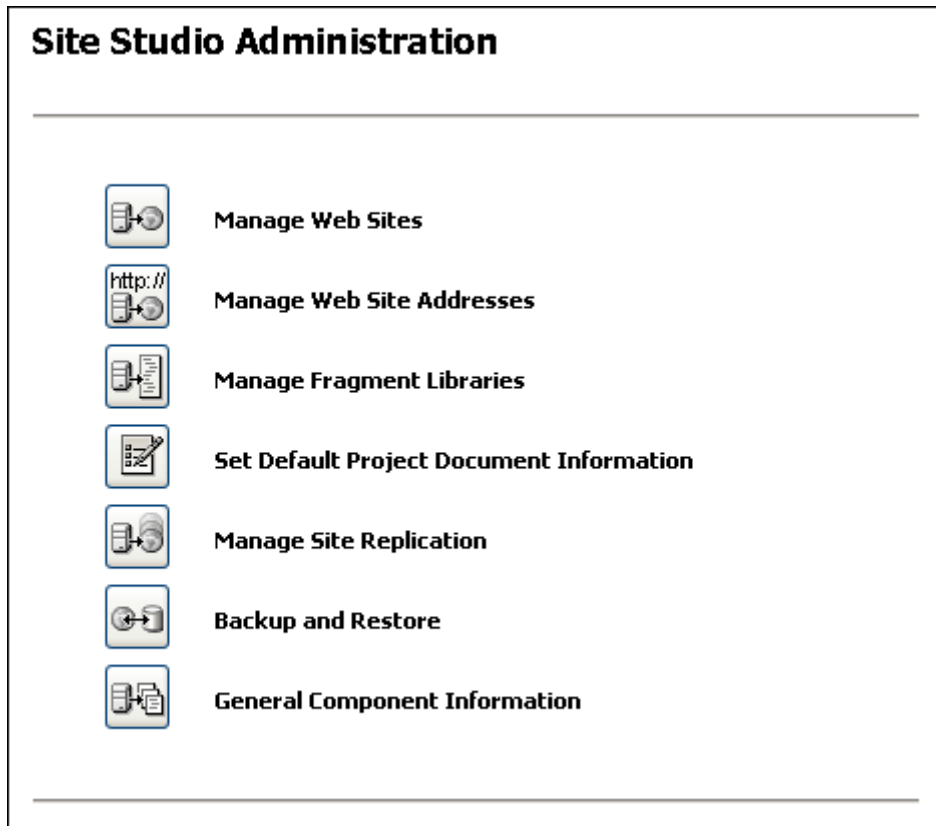
デザイナー、マネージャおよびコントリビュータ・アプリケーションを使用したサイトの作成および管理に加え、Content Server のインタフェースを使用して、サイトの開始および停止、プロジェクトへのデフォルトのメタデータの割当て、フラグメント・ライブラリの管理、サイトのレプリケート、サイトのバックアップおよびリストアなどの管理タスクを実行できます。

これらのタスクは、Content Server インタフェースの「Site Studio Administration」ページから実行します。このページを表示するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「Site Studio Administration」を選択します。

「Site Studio Administration」ページが表示されます。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。

図 1-5 「Site Studio Administration」 ページ



「Site Studio Administration」 ページでは、次のオプションを使用できます。

要素	説明
Manage Web Sites	「Manage Web Sites」 ページ (A.1 項「 <a href="#">Manage Web Sites</a> ページ」を参照) が表示されます。各サイトの表示、ナビゲーションの更新、サイト・レポートの表示、サイトの開始と停止、およびサイトのリロードができます。 詳細は、第 2 章「 <a href="#">Web サイトの管理</a> 」を参照してください。
Manage Web Site Addresses	「Manage Web Sites Address」 ページ (A.4 項「 <a href="#">Web Site Addresses</a> ページ」を参照) が表示されます。Web サイトを示すドメイン・アドレスを追加できます。 詳細は、第 3 章「 <a href="#">Web サイト・アドレスの管理</a> 」を参照してください。
Manage Fragment Libraries	「Manage Fragment Libraries」 ページ (A.5 項「 <a href="#">Manage Fragment Libraries</a> ページ」を参照) が開きます。必要に応じ、フラグメント・ライブラリのデプロイおよび JSP サポートの構成ができます。 詳細は、第 4 章「 <a href="#">フラグメント・ライブラリの管理</a> 」を参照してください。

要素	説明
Set Default Project Document Information	<p>「Set Default Project Document Information」 ページ (A.6 項「<a href="#">「Set Default Project Document Information」 ページ</a>」を参照) が開きます。新しいプロジェクト・ファイル (デザイナーで作成) に割り当てられたデフォルトのメタデータを指定できます。</p> <p>詳細は、第 5 章「<a href="#">デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定</a>」を参照してください。</p>
Manage Site Replication	<p>「Manage Site Replication」 ページ (A.7 項「<a href="#">「Manage Site Replication」 ページ</a>」を参照) が表示されます。サイトをコンテンツ・サーバー間でレプリケートできます。</p> <p>詳細は、第 6 章「<a href="#">サイト・レプリケーションの管理</a>」を参照してください。</p>
Backup and Restore	<p>「Backup and Restore」 ページ (A.13 項「<a href="#">「Backup and Restore」 ページ</a>」を参照) が表示されます。Web サイトのバックアップの作成および Web サイトのバックアップからのリストアができます。</p> <p>詳細は、第 7 章「<a href="#">Web サイトのバックアップおよびリストア</a>」を参照してください。</p>
General Component Information	<p>「General Component Information」 ページ (A-22 ページの「<a href="#">「General Component Information」 ページ</a>」を参照) が表示されます。バージョン、Site Studio 固有のメタデータ、ディレクトリ・パスなどのサイトの有用な情報を確認できます。</p> <p>詳細は、第 8 章「<a href="#">一般コンポーネント情報</a>」を参照してください。</p>

「Site Studio Administration」 ページは、Content Server の「Administration」 セクションまたはデザイナー (「Site Studio Admin」 オプション) のプレビュー・アイコン (図 1-6) を使用して表示できます。

図 1-6 Site Studio デザイナーのプレビュー・アイコン





---

## Web サイトの管理

### 概要

- 2-2 ページの「[Web サイトの管理の概要](#)」

### タスク

- 2-2 ページの「[Web サイトの表示](#)」
- 2-2 ページの「[Web サイト・ナビゲーションの更新](#)」
- 2-3 ページの「[Web サイト・オブジェクト・レポートの表示](#)」
- 2-3 ページの「[Site Studio マネージャの使用](#)」
- 2-14 ページの「[Web サイトの開始および停止](#)」
- 2-15 ページの「[Web サイトのロード](#)」

## 2.1 Web サイトの管理の概要

Content Server インタフェースでは、Site Studio Web サイトの管理を支援するオプションが使用できます。管理タスクは、コンテンツ・サーバーの「Manage Web Sites」ページから実行します（A-2 ページの「[「Manage Web Sites」ページ](#)」を参照）。定義済 Web サイトの有効性の制御、Web サイトのナビゲーションの更新、Web サイトの開始と停止、およびサイト・レポートの生成ができます。また、このページからマネージャ・アプリケーションを起動して、サイト階層の変更、セクションの追加と削除、サイト・ページへのテンプレートの割当ておよびサイト・プロパティの設定ができます。

## 2.2 Web サイトの表示

「Manage Web Sites」ページにリストされているすべての Web サイトは、Web ブラウザでロードおよび表示できます。管理対象 Web サイトを表示するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Manage Web Sites**」をクリックします。  
「Manage Web Sites」ページが表示されます（A-2 ページの「[「Manage Web Sites」ページ](#)」を参照）。
4. リストから表示する Web サイトを選択し、「**View Web Site**」をクリックします。
5. Web サイトが、同一のブラウザ・ウィンドウまたはタブで開きます。

## 2.3 Web サイト・ナビゲーションの更新

サイト・マネージャは、ディレクトリおよびサブディレクトリの追加と削除、または Web サイトの別の領域へのディレクトリの移動などを実行して、Web サイトの構造を変更できます。サイト構造を変更する場合、すべてのサイト・ナビゲーションを更新（再構築）する必要があります。

Web サイトのナビゲーションを変更するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Manage Web Sites**」をクリックします。  
「Manage Web Sites」ページが表示されます（A-2 ページの「[「Manage Web Sites」ページ](#)」を参照）。
4. ナビゲーションを更新する Web サイトを選択し、「**Update Navigation**」をクリックします。

Web サイト・ナビゲーションが更新されます。進行状況は表示されませんが、プロセスが終了するとページは自動的にリフレッシュされます。

## 2.4 Web サイト・オブジェクト・レポートの表示

Web サイト・オブジェクト・レポートには、Web サイトの各部分での使用アクティビティの詳細が表示されます。デザイナーが実装した場合、サイト・マネージャは Web サイト・レポートを使用できます。

Web サイト・オブジェクト・レポートを表示するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「**Site Studio 管理**」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Manage Web Sites**」をクリックします。  
「Manage Web Sites」ページが表示されます（A-2 ページの「**Manage Web Sites**」ページを参照）。
4. レポートを表示する Web サイトを選択し、「**View Web Site Objects Report**」をクリックします。  
「Web Site Objects Report」ページが表示されます（A-9 ページの「**Web Site Objects Report**」ページを参照）。
5. 任意のオブジェクト・カテゴリをクリックして、カテゴリ固有のレポートを表示します。

## 2.5 Site Studio マネージャの使用

Site Studio マネージャ・アプリケーションは、アプリケーションを使用してサイト管理タスクを実行する、指定されたユーザーが使用できます。

- 2-4 ページの「**セクションの追加**」
- 2-5 ページの「**セクションの削除**」
- 2-6 ページの「**セクションの移動**」
- 2-7 ページの「**セクション・プロパティの編集**」
- 2-7 ページの「**セクション名の変更**」
- 2-8 ページの「**Web サイトへのセクションの表示または非表示**」
- 2-9 ページの「**コントリビュータ専用としてのセクションの指定**」
- 2-9 ページの「**エラー・ハンドラとしてのセクションの指定**」
- 2-10 ページの「**セクションまたはページに関連付けられた URL の変更**」
- 2-10 ページの「**セクションの最大経過時間の変更**」
- 2-11 ページの「**カスタム・プロパティの変更**」
- 2-11 ページの「**ページ・テンプレートのプレビュー**」
- 2-12 ページの「**セクションへのプライマリ・ページの割当て**」
- 2-12 ページの「**セクションへの外部 URL の割当て**」
- 2-13 ページの「**セクションへのセカンダリ・ページの割当て**」
- 2-13 ページの「**セクションからのページ・テンプレートの削除**」
- 2-14 ページの「**ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページの表示**」

## 2.5.1 Site Studio マネージャの起動

Site Studio マネージャ・アプリケーションは、Content Server インタフェースからアクセスできますが、サイト・デザイナーは Web サイトからマネージャ・アプリケーションにアクセスすることもできます。後者のオプションの詳細は、『Site Studio デザイナ・ガイド』を参照してください。Content Server からサイト・マネージャを起動するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「Site Studio Administration」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「Site Studio 管理」を参照）。Content Server を「Top Menu」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「Manage Web Sites」をクリックします。  
「Manage Web Sites」ページが表示されます（A-2 ページの「Manage Web Sites」ページを参照）。
4. 管理する Web サイトを選択し、「Manage Site」をクリックします。  
「Manage Site」ページが表示されます（A-3 ページの「Manage Site Page」ページ（Site Studio マネージャ）を参照）。

## 2.5.2 セクションの追加

サイト階層から、または「Section」タブで、Web サイトにセクションを追加できます。Web サイトにセクションを追加するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「Site Studio マネージャの起動」を参照）。
2. セクションを追加するサイト階層で、セクションを選択し、次のいずれかを実行します。
  - サイト階層の選択したセクションで、マウスを右クリックして、「Add new section」を選択します。
  - 「Section」タブで、「Add」をクリックします。  
「Add New Section」ダイアログが表示されます（図 2-1）。

図 2-1 「Add New Section」ダイアログ

The image shows a dialog box titled "Add New Section". It has a title bar with a globe icon and the text "Add New Section". The dialog contains the following elements:

- A "Label:" text input field.
- A "URL:" text input field.
- A group box containing two radio buttons:
  - Auto-generate section ID
  - Manually enter section ID
- Below the "Manually enter section ID" radio button is a text input field containing the text "(auto)".
- At the bottom right, there are "OK" and "Cancel" buttons.



3. セクションの情報を入力します。
  - **Label:** セクションのラベルを入力します。ラベルは、サイト階層および Web サイトのナビゲーション・メニューに表示されます。
  - **URL:** デフォルトの URL は、すべての空白を取り除いたセクション・ラベルです。自動的に指定される URL とは異なるものにする場合は URL を入力します。URL の値には、空白や特殊文字を含めないでください。URL の値は、Web アドレスのそのセクションを表すものです（たとえば、`http://www.mysite.com/product1/index.htm` というアドレスの場合、URL の値は `product1` です）。この値は、そのセクションへのパスベースのすべてのリンクにも使用されます。
  - **Section ID:** Site Studio でセクションを識別する方法を選択します。
    - **Auto-generate section ID:** Site Studio により ID が自動的に生成されます。
    - **Manually enter section ID:** セクションに独自の ID を指定します。（セクション ID はコンテンツ・サーバー内で一意であることが必要です。）

---

---

**注意:** セクション ID（ノード ID と呼ばれる）は、セクションをターゲットとするすべての ID ベースのリンクに使用されます。

---

---

4. 「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、サイト階層にセクションを追加します。

サイト階層にセクションを追加したら、「Section」設定を使用して、セクション・タブのプロパティを変更できます（2-7 ページの「[セクション・プロパティの編集](#)」を参照）。サイト階層に追加したセクションは、選択してサイトのナビゲーションに含めるまで、Web サイトには表示されません（2-8 ページの「[Web サイトへのセクションの表示または非表示](#)」を参照）。

## 2.5.3 セクションの削除

サイト階層からセクションを削除して、Web サイトに表示されないようにすることができます。セクションを削除するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. サイト階層で、削除するセクションを選択し、次のいずれかを実行します。
  - サイト階層の選択したセクションで、マウスを右クリックして、「**Remove this section**」を選択します。
  - 「Section」タブで、「**Remove**」をクリックします。
3. 「OK」をクリックしてメッセージを確認します。

少し遅れて、サイト階層からセクションが削除されます。

---

---

**注意:** セクションを削除しても、そのセクションに関連付けられていたコンテンツ（ページ・テンプレート、フラグメント、グラフィックなど）はコンテンツ・サーバーに残り、Web サイトに関連付けられたままになります。

---

---

## 2.5.4 セクションの移動

サイト階層内のセクションの順序を変更できます。セクションの順序は、Web サイトでどのように表示されるかに影響します。セクションを移動するには、サイト階層へのドラッグ・アンド・ドロップ、または Move コマンドの使用という 2 つの方法があります。

### セクションのドラッグ・アンド・ドロップでの移動

サイト階層でセクションをドラッグ・アンド・ドロップで移動するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します (2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照)。
2. サイト階層でセクションをクリックし、移動するサイト階層の場所までドラッグします。
3. マウス・ボタンを放すと、セクションをどこに配置するかを尋ねるコンテキスト・メニューが表示されます。
  - **Move Before section [name]**
  - **Move After section [name]**
  - **Move Into section [name]**
4. 適切な相対的な場所を選択します。「Move Before section...」を選択した場合、セクションは選択されたセクションのサブセクションになります。

少し遅れて、サイト階層にセクションが表示されます。

### セクションの Move コマンドを使用した移動

Move コマンドを使用して、セクションを移動するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します (2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照)。
2. サイト階層で、移動するセクションを選択し、次のいずれかを実行します。
  - サイト階層の選択したセクションで、マウスを右クリックして、「**Move this section**」を選択します。
  - 「**Section**」タブで、「**Move**」をクリックします。  
「Move Section」ダイアログが表示されます。
3. セクションを移動するサイト階層の場所を選択し、適切な相対的な場所を選択します。
  - **Before**
  - **After**
  - **As child of**「As child of」を選択した場合、セクションは選択されたセクションのサブセクションになります。
4. 終了したら、「**OK**」をクリックします。

少し遅れて、サイト階層にセクションが表示されます。

## 2.5.5 セクション・プロパティの編集

「Section」タブで、サイト階層の選択したセクションのプロパティを表示および編集できます。次のプロパティを表示および変更できます。

- **Section ID:** サイト階層（およびコンテンツ・サーバー）のセクションを一意に識別するセクション ID。変更するとそのセクションをターゲットとするリンクが壊れてしまうため、このフィールドは通常無効化されています。
- **Section Label:** セクションの名前。この名前は、サイト階層および Web サイトのナビゲーション・メニューに表示されます（URL では必ずしも必要ではありません）。必要に応じて、セクション・ラベルを変更できます。詳細は、2-7 ページの「[セクション名の変更](#)」を参照してください。
- **Include in Navigation:** このチェック・ボックスを選択すると、Web サイトのナビゲーション・メニューにセクションがリンクとして表示されます。詳細は、2-8 ページの「[Web サイトへのセクションの表示または非表示](#)」を参照してください。
- **Contributor Only:** このチェック・ボックスを選択すると、コントリビューション・モードの場合にのみセクションが表示されます。これは、コントリビュータと直接通信する場合や、公式に使用可能にする前にコンテンツをプレビューする場合などに便利です。詳細は、2-9 ページの「[コントリビュータ専用としてのセクションの指定](#)」を参照してください。
- **Url Directory Name:** サイト URL に表示されるセクションのディレクトリ名。たとえば、<http://www.mysite.com/product1/index.htm> というアドレスの場合、URL ディレクトリ名は `product1` です。この値は、そのセクションへのパスベースのすべてのリンクにも使用されます。デフォルトでは、URL ディレクトリ名はセクション・ラベルと同一ですが、必要に応じて別の値を使用できます。名前には、空白や特殊文字を含めないでください。詳細は、2-10 ページの「[セクションまたはページに関連付けられた URL の変更](#)」を参照してください。
- **Url Page Name:** Web サイト・アドレスの（このセクションに関連付けられている）プライマリ・ページを表す URL。URL ページ名を指定しない場合、`index.htm` を使用してプライマリ・ページが表示されます。詳細は、2-10 ページの「[セクションまたはページに関連付けられた URL の変更](#)」を参照してください。
- **Maximum Age:** このセクションの Web サイト・ページがキャッシュに残る最大時間（秒単位）。これにより、Site Studio Web サイトのパフォーマンスおよびセキュリティが向上します。詳細は、2-10 ページの「[セクションの最大経過時間の変更](#)」を参照してください。

## 2.5.6 セクション名の変更

ラベルおよびその他の関連情報を変更することで、サイト階層のセクション名を変更できます。これらの設定は、「Section」プロパティで変更できます。

セクションの名前を変更するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. サイト階層で、名前または URL、あるいはその両方を変更するセクションを選択します。
3. 「Section」タブで、「Section Label」に値を入力します。ラベルが、サイト階層および Web サイトのナビゲーション・メニューに表示されます。
4. セクションに使用されているパスを変更するには、「Url Directory Name」に入力します。名前には、空白や特殊文字を含めないでください。2-10 ページの「[セクションまたはページに関連付けられた URL の変更](#)」を参照してください。
5. キーボードで [Enter] を押すか、マネージャ内の別の場所をクリックします。

## 2.5.7 Web サイトへのセクションの表示または非表示

サイト階層内の各セクションは、特に除外しないかぎり、Web サイトのナビゲーション・メニューにリンクとして表示されます。サイト・ナビゲーションにセクションを表示しない理由はいくつかあります。

- **新しいコンテンツの導入**: Web サイトにセクションまたはページ・テンプレートを導入する際には、編集およびテストが完了するまで、公式に表示されないようにすることが必要な場合があります。サイト・ナビゲーションに含めないことが、これを実現する1つの方法です。

コンテンツを非表示にする別の方法は、セクションをコントリビューション・モードでのみ表示できるようにする (2-9 ページの「[コントリビュータ専用としてのセクションの指定](#)」を参照) か、ワークフローを使用することです。

- **検索結果ページ**: Site Studio の Web サイトで検索を行う際は、デザイナーによって検索結果ページの表示セクションが指定されます。ただし、このセクションは、検索以外のコンテキストでの表示用ではないため、サイト・ナビゲーションでは非表示にする必要があります。
- **カスタム・エラー・ページ**: Site Studio のカスタム・エラー機能を使用する場合、デザイナーによってカスタム・エラー・ページの表示セクションが指定されます。ただし、このセクションは、エラー・メッセージの受信以外のコンテキストでの表示用ではないため、サイト・ナビゲーションでは非表示にする必要があります。詳細は、2-9 ページの「[エラー・ハンドラとしてのセクションの指定](#)」を参照してください。

デフォルトでは、作成するセクションはサイト・ナビゲーションに含まれないため、リンクとして自動的に Web サイトに追加されません。サイト・ナビゲーションに含めるために、それらをマークする必要があります。サイト階層のセクションの可視ステータスは、アイコンで表示されます (図 2-2)。

図 2-2 セクション・アイコンの表示および非表示



Web サイトでセクションを表示または非表示にするには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します (2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照)。
2. サイト階層で、表示または非表示にするセクションを選択し、次のいずれかを実行します。
  - サイト階層の選択したセクションで、マウスを右クリックして、「**Include section in navigation**」チェック・ボックスを選択または選択解除します。
  - 「**Section**」タブで、「**Include in Navigation**」チェック・ボックスを選択または選択解除します。

少し遅れてサイト階層のセクション・アイコンが更新され、可視ステータスが反映されます (図 2-2)。

## 2.5.8 コントリビュータ専用としてのセクションの指定

サイトがコントリビューション・モードで表示された場合にのみ、サイトのセクションが表示されるように指定できます。コントリビュータ専用セクションの作成は、コントリビュータと直接通信する場合や、公式に使用可能にする前にコンテンツをプレビューする場合などに便利です。

セクションをコントリビュータ専用として指定するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します (2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照)。
2. コントリビュータ専用として指定するサイト階層のセクションを選択します。
3. 「Section」タブで、「Contributor Only」チェック・ボックスを選択します。

コントリビューション・モードでのみ表示される場合でも、サイト・ナビゲーションにセクションが含まれていることの確認が必要な場合があります (2-8 ページの「[Web サイトへのセクションの表示または非表示](#)」を参照)。

## 2.5.9 エラー・ハンドラとしてのセクションの指定

様々な状況で、サイトへのビジターまたはコントリビュータに、コンテンツ・サーバーで生成されたエラー・メッセージが表示される場合があります。ユーザーにエラー・メッセージが表示される一般的な例には、ファイルがリクエストされているセクションにセカンダリ・ページがない状況や、サイトからファイル (コントリビュータ・データファイルまたはネイティブ・ドキュメント) が削除されているがハイパーリンクがそのファイルを指している場合が含まれます。ユーザーにこのようなタイプのエラーが表示されるのを防ぐために、サイトのデザイナーは、カスタム・エラー・ページを作成できます。マネージャ (またはデザイナー) は、サイトのセクションがエラー・ハンドラとして機能するように指定し、そのセクションにエラー・ページを割り当てることができます。

セクションをエラー・ハンドラとして指定するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します (2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照)。
2. サイト階層で、エラー・ハンドラとして指定するセクションを選択し、次のいずれかを実行します。
  - サイト階層の選択したセクションで、マウスを右クリックして、「Set section as error handler」チェック・ボックスを選択します。
  - 「Section」タブで、「error handler」リンクをクリックします。
3. 少し遅れてサイト階層のセクション・アイコンが更新され、エラー・ハンドラのステータスが反映されます (図 2-3)。

図 2-3 エラー・ハンドラ・アイコン



4. 指定されたセクション・アイコンがサイト階層で選択されていることを確認し、「Page Template」タブを開きます。
5. 「Preview page template」の隣で、カスタム・エラー・ページのページ・テンプレートを選擇して、「Apply」をクリックします。

セクションをエラー・ハンドラとして指定したら、そのセクションをサイト・ナビゲーションに含めないでください (2-8 ページの「[Web サイトへのセクションの表示または非表示](#)」を参照)。

---

**注意:** マネージャでは、ホームページをエラー・ハンドラ・ページとして設定できます。デザイナーではこれは不可能であるため、デザイナーを使用して設定を解除することはできません。

---

## 2.5.10 セクションまたはページに関連付けられた URL の変更

セクション（またはページ）に関連付けられた URL は、このセクションを完全な Web アドレスで表したものです。たとえば、`http://www.mysite.com/product1/index.htm` というアドレスの場合、セクションに関連付けられた URL は `product1`、ページに関連付けられた URL は `index.htm` です。この値は、そのセクションへのパスベースのすべてのリンクにも使用されます。値には、空白または特殊文字を含めないでください。

セクションまたはページに関連付けられた URL を変更するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. サイト階層で、名前または URL、あるいはその両方を変更するセクションを選択します。
3. 「**Section**」タブが開いていることを確認します。

Web サイトアドレスのこのセクションを表す URL を変更するには、「**Url Directory Name**」に値を入力します。デフォルトでは、URL ディレクトリ名はセクション・ラベルと同一ですが、必要に応じて別の値を使用できます。

Web サイト・アドレスの（このセクションに関連付けられている）プライマリ・ページを表す URL を変更するには、「**Url Page Name**」に値を入力します。URL ページ名を指定しない場合、`index.htm` を使用してプライマリ・ページが表されます。

4. キーボードで [Enter] を押すか、マネージャ内の別の場所をクリックします。

---

**注意：**セカンダリ・ページに使用される名前は、表示されるファイル（コンテンツリビュータ・データファイルまたはネイティブ・ドキュメント）のコンテンツ ID (dDocName) です。この値の変更の詳細は、サイト・デザイナーに問い合わせてください。

---

## 2.5.11 セクションの最大経過時間の変更

Site Studio の Web サイトのパフォーマンスおよびセキュリティを向上させる方法の 1 つは、サーバーにリバース・プロキシ・キャッシュを実装することです。サーバーとユーザーの間にキャッシュを配置することで、ビジー状態になる可能性のあるサーバーにかかる負荷が減ります。組織にそのような設定がある場合は、マネージャを使用して、特定のページがキャッシュに残される最大の時間を指定できます。

セクションの最大経過時間を変更するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. サイト階層で最大経過時間を変更するセクションを選択します。
3. 「**Section**」タブが開いていることを確認します。

「**Maximum Age**」に値（秒単位）を入力します。最大経過時間を指定しない場合、ファイルは永久にキャッシュに残ります。

4. キーボードで [Enter] を押すか、マネージャ内の別の場所をクリックします。

## 2.5.12 カスタム・プロパティの変更

サイトにカスタム・プロパティがある場合は、マネージャに追加の「Custom Properties」タブが表示されます。これらのプロパティはサイトのデザイナーにより作成され、通常は、特定のサイトまたはコンテンツ・サーバーの関連サイトに適用されます。サイト・マネージャは、セクション・プロパティの値の追加や削除はできず、編集のみが可能です。

カスタム・プロパティを使用すると、サイトの各セクションに異なる値を指定できるため、サイトでそのセクションがどのように表示されるか、またはどのように機能するかを決定できます（デザイナーは、それらの値を読み取り、特定のコマンドを実行するフラグメントを作成できます）。

カスタム・プロパティを変更するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. サイト階層でカスタム・プロパティを表示または変更するセクションを選択します。
3. 「Custom Properties」タブを開きます。
4. 各カスタム・プロパティに必要な値を入力します。
5. キーボードで [Enter] を押すか、マネージャ内の別の場所をクリックします。

---

**注意：** カスタム・プロパティの正しい使用方法については、サイト・デザイナーに問い合せてください。

---

## 2.5.13 ページ・テンプレートのプレビュー

サイトを管理する際、頻繁に実行するタスクはページ・テンプレートのプレビューです。ページ・テンプレートのプレビューは、セクションに最適なページ・テンプレートの決定、サイト階層またはセクション・プロパティに対する変更のプレビューなどに便利です。

ページ・テンプレートをプレビューするには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. プライマリ・ページをプレビューするには、「Page Template」タブを開きます。  
セカンダリ・ページをプレビューするには、「Secondary Page Template」タブを開きます。
3. 「Preview page template」の隣で、メニューをクリックして、目的のページ・テンプレートを選択します。

選択したページ・テンプレートが、プレビュー領域に表示されます。

## 2.5.14 セクションへのプライマリ・ページの割当て

サイト階層の各セクションには、そのセクションのデフォルト・ページまたは最初のページとして機能する、プライマリ・ページ（または外部 URL）が指定されている必要があります。各セクションに一意的なページ・テンプレートを割り当てることも、複数のセクションに同じページ・テンプレートを再利用することもできます。

セクションにプライマリ・ページを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. プライマリ・ページを割り当てるサイト階層のセクションを選択します。
3. 「Page Template」タブを開きます。
4. 「Preview page template」の隣で、メニューをクリックして、リストから目的のページ・テンプレートを選択します。
5. 「Apply」をクリックします。

選択したページ・テンプレートが、プレビュー領域に表示されます。

サイトにホームページを追加するには、サイト階層（Home）でサイトのルートを選択し、プライマリ・ページを割り当てます。プライマリ・ページを使用する方法の代替として、セクションに使用する外部 URL を指定できます（2-12 ページの「[セクションへの外部 URL の割当て](#)」を参照）。

## 2.5.15 セクションへの外部 URL の割当て

セクションにプライマリ・ページを割り当てるかわりに、外部 URL を割り当てることもできます。これにより、セクションにはページ・テンプレートのかわりに、別の Web サイトの Web ページが使用されます。セクションのビジターは、指定した Web ページの URL に送られます。

セクションに外部 URL を割り当てるには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
  2. 外部 URL を割り当てるサイト階層のセクションを選択します。
  3. 「Page Template」タブを開きます。
  4. 「Preview page template」の隣で、メニューをクリックして、「Choose External URL...」を選択します。
- 「Choose External URL」ダイアログが表示されます。
5. サイトのそのセクションに使用する Web アドレスを指定します。
  6. 「OK」をクリックします。

指定した Web ページが、プレビュー領域に表示されます。

外部 URL の使用は、パートナ・サイトや同じ組織内の部門レベルのサイトへのリンクに便利です。外部 URL をプライマリ・ページに割り当てることはできますが、セカンダリ・ページには割り当てられません。



## 2.5.16 セクションへのセカンダリ・ページの割当て

コントリビュータが Web サイトのある部分にファイル（コントリビュータ・データファイルまたはネイティブ・ドキュメント）を追加する場合、サイト階層の各セクションにはセカンダリ・ページが必要です。セカンダリ・ページはそれらのファイルの背景のような機能を果し、コントリビュータが Web サイトにさらにページを追加できるようにします。各セクションに一意のページ・テンプレートを割り当てることも、複数のセクションに同じページ・テンプレートを再利用することもできます。

セクションにセカンダリ・ページを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. セカンダリ・ページを割り当てるサイト階層のセクションを選択します。
3. 「**Secondary Page Template**」タブを開きます。
4. 「**Preview page template**」の隣で、メニューをクリックして、リストから目的のページ・テンプレートを選択します。
5. 「**Apply**」をクリックします。

選択したページ・テンプレートが、プレビュー領域に表示されます。

---

---

**注意：** サイト階層のルート（ホームページ以外）にセカンダリ・ページを追加できます。これを実行するには、「**Site Hierarchy**」ペイン（Home）でサイトのルートを選択し、セカンダリ・ページを割り当てます。

---

---

## 2.5.17 セクションからのページ・テンプレートの削除

セクションに割り当てられたページ・テンプレートを削除できます。ページ・テンプレートを削除するとセクションへの割当ても削除されますが、通常は、その他のセクションやコンテンツ・サーバーからは削除されません。

セクションからページ・テンプレートを削除するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します（2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照）。
2. サイト階層でページ・テンプレートを削除するセクションを選択します。
3. プライマリ・ページを削除するには、「**Page Template**」タブを開きます。  
セカンダリ・ページを削除するには、「**Secondary Page Template**」タブを開きます。
4. ページ・テンプレートの隣で、「**clear**」をクリックします。

割り当てられたページ・テンプレートがない状態でページがリフレッシュされます。

## 2.5.18 ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページの表示

割り当てられているメタデータや作成者などを確認するために、プライマリまたはセカンダリ・ページ・テンプレートのコンテンツ情報の表示が必要になる場合があります。

ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページを表示するには、次の手順を実行します。

1. サイト・マネージャ・アプリケーションを起動します (2-4 ページの「[Site Studio マネージャの起動](#)」を参照)。
2. プライマリ・ページの場合は、「**Page Template**」タブを開きます。  
セカンダリ・ページの場合は、「**Secondary Page Template**」タブを開きます。
3. ページ・テンプレートの隣にある情報アイコン (図 2-4) をクリックします。

### 図 2-4 情報アイコン



ページ・テンプレートに割り当てられているメタデータの表示や更新が可能な、コンテンツ・サーバーの標準コンテンツ情報ページに移動します。

## 2.6 Web サイトの開始および停止

サイト・マネージャは、時にサイトを停止したり、再び使用できるようにサイトをリストアしたりする必要があります。現在実行中で使用可能なサイトは、「[Manage Web Sites](#)」ページ (A-2 ページの「[Manage Web Sites](#)」ページ) を参照) の「**Web Sites**」領域でヘッダー「**Running Web Sites**」の下にリストされています。停止中の Web サイトは、「**Stopped Web Sites**」の下にリストされています。

Web サイトを開始または停止するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「**Site Studio Administration**」ページが表示されます (1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照)。Content Server を「**Top Menu**」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「**Site Studio Administration**」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Manage Web Sites**」をクリックします。  
「**Manage Web Sites**」ページが表示されます (A-2 ページの「[Manage Web Sites](#)」ページ) を参照)。
4. サイトを選択し、「**Start Web Site**」または「**Stop Web Site**」のいずれかをクリックします。

## 2.7 Web サイトのロード

サイトを開始または停止した場合、実行中および停止中の Web サイトのリストを時折リフレッシュして現在のステータスを反映する必要があります。

すべての Web サイトをリロードするには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Manage Web Sites**」をクリックします。  
「Manage Web Sites」ページが表示されます（A-2 ページの「[「Manage Web Sites」ページ](#)」を参照）。
4. 「**Reload Web Sites**」をクリックします。



---

---

## Web サイト・アドレスの管理

### 概要

- 3-2 ページの「[Web サイト・アドレスの概要](#)」

### タスク

- 3-2 ページの「[Web サイト・アドレスの追加](#)」
- 3-3 ページの「[デフォルトの Web アドレスの選択および選択解除](#)」
- 3-4 ページの「[Web サイト・アドレスの削除](#)」

## 3.1 Web サイト・アドレスの概要

サイトにアクセスするには、フォルダ・アドレスを使用する方法またはドメイン・アドレスを使用する方法があります。サイトを初めて設定する際、<http://MyComputer/MySite> ("MyComputer" はシステムの名前、"MySite" はサイト ID) のようなフォルダ・アドレスを使用できます。ただし、いずれは、便利でよく知られたサイトへのアクセス方法として、<http://www.mycompany.com> ("mycompany.com" はドメイン名) のようなドメイン・アドレスを使用するようになります。

コンテンツ・サーバー上の「Site Studio Administration」ページの Site Studio Web サイトに対する Web サイト・アドレスを設定できます。

ドメイン・アドレスには、追加の DNS 構成が必要であり、この構成はユーザーまたはサイト管理者が実行する必要があります。

## 3.2 Web サイト・アドレスの追加

サイトにアクセスする際には、通常、フォルダ・アドレスよりもドメイン・アドレスのほうが容易に記憶できます。ドメイン・アドレスを追加すると、サイトにアクセスしやすくなります。

Web サイト・アドレスを追加するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「Site Studio Administration」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます (1-7 ページの「Site Studio 管理」を参照)。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. **Manage Web Site Addresses** をクリックします。  
「Web Site Addresses」ページが表示されます (A-10 ページの「Web Site Addresses ページ」を参照)。

---

**注意：** Site Studio デザイナの「Sites Address」ダイアログを使用して、ドメイン・アドレスを構成できます。

---

4. Web サイトを選択し、アドレスを追加します。ドメイン・アドレスに URL 全体を入力します。
5. 「Add」をクリックします。  
ページの上部に Web サイト・アドレスが表示されます。

### 3.3 デフォルトの Web アドレスの選択および選択解除

Web サイトの Web アドレスを入力すると、指定された Web サイトのデフォルトの Web アドレスを選択でき、既存のデフォルトの Web アドレスをデフォルトから削除できます。デフォルトの Web アドレスは、Site Studio で Web サイトのリストを表示する際に、最初に表示されるアドレスです。

#### デフォルトの Web アドレスの選択

Web サイト・アドレスをデフォルトにするには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。
3. **Manage Web Site Addresses** をクリックします。  
「Web Site Addresses」ページが表示されます（A-10 ページの「[Web Site Addresses ページ](#)」を参照）。Content Server を「Top Menu」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
4. Web サイト・アドレスのリストで、アドレスの隣のアクション・アイコンをクリックします。
5. メニューから、「**Select as Default Web Address**」を選択します。  
デフォルトの Web アドレスが太字で表示されます。

#### デフォルトの Web アドレスの選択解除

デフォルトとして選択した Web サイト・アドレスを解除するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「Top Menu」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. **Manage Web Site Addresses** をクリックします。  
「Web Site Addresses」ページが表示されます（A-10 ページの「[Web Site Addresses ページ](#)」を参照）。
4. Web サイト・アドレスのリストで、アドレスの隣のアクション・アイコンをクリックします。
5. メニューから、「**Deselect as Default Web Address**」を選択します。  
デフォルトの Web アドレスが太字で表示されなくなります。

## 3.4 Web サイト・アドレスの削除

Web サイト・アドレスを使用しなくなった場合は、削除できます。

Web サイト・アドレスを削除するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. **Manage Web Site Addresses** をクリックします。  
「Web Site Addresses」ページが表示されます（A-10 ページの「[Web Site Addresses](#) ページ」を参照）。
4. Web サイト・アドレスのリストで、削除するアドレスの隣のアクション・アイコンをクリックします。
5. メニューから、「**Remove Site Address**」を選択します。  
Web サイト・アドレスがリストに表示されなくなります。



---

## フラグメント・ライブラリの管理

### 概要

- 4-2 ページの「フラグメント・ライブラリの概要」

### タスク

- 4-2 ページの「サーバー上へのフラグメント・ライブラリのデプロイ」
- 4-3 ページの「サーバー上での JSP フラグメントの構成」

## 4.1 フラグメント・ライブラリの概要

フラグメントは、単一行のテキスト（おそらく、企業の著作権の記述）またはクライアント側およびサーバー側アクションを実行するスクリプトの複合的なコレクション（JavaScript ベースのメニューなど）です。

フラグメントは、複数の Web サイトで使用できるライブラリにコンパイルされます。フラグメント・ライブラリは、`[CS-Dir]\weblayout\fragments` ディレクトリにあり、Web サイトで使用できます。これらは、Site Studio のインストールの際、デフォルトでこの場所にデプロイされます。ただし、手動でフラグメント・ライブラリをコンテンツ・サーバーにチェックインする場合には、この場所にデプロイする必要があります。

## 4.2 サーバー上へのフラグメント・ライブラリのデプロイ

フラグメント・ライブラリをコンテンツ・サーバーにチェックイン済で、サイトで使用できる適切なディレクトリにはデプロイしていない場合、コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」セクションでフラグメントをデプロイできます。

サーバーにフラグメント・ライブラリをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「Site Studio Administration」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「Site Studio 管理」を参照）。Content Server を「Top Menu」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「Manage Fragment Libraries」をクリックします。  
「Manage Fragment Libraries」ページが表示されます（A-11 ページの「Manage Fragment Libraries」ページを参照）。
4. デプロイするフラグメント・ライブラリを選択します。
5. 「Deploy Fragment Library」をクリックします。  
フラグメント・ライブラリは、コンテンツ・サーバー上の `[CS-Dir]\weblayout\fragments` ディレクトリにデプロイされます。これが終了すると、ページがリフレッシュされ、「Deploy Fragment Library」ボタンが再び無効化されます（別のライブラリを選択するまで）。  
これらの手順は、デザイナー・アプリケーションの Upload Fragment Library/Download Fragment Library 機能を使用しても実行できます。詳細は、『Site Studio デザイナー・ガイド』を参照してください。

## 4.3 サーバー上での JSP フラグメントの構成

Site Studio コンポーネントのインストール後に、コンテンツ・サーバー内の JSP 対応のグループにグループを追加する場合は、JSP サポート・ファイルを再デプロイ（抽出）して、Site Studio JSP フラグメントが正常に動作するようにする必要があります。

サーバーに JSP フラグメントを構成するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Manage Fragment Libraries**」をクリックします。  
「Manage Fragment Libraries」ページが表示されます（A-11 ページの「[Manage Fragment Libraries](#)」ページを参照）。
4. 「**Configure JSP Support**」をクリックします。  
必要なサポート・ファイルが、コンテンツ・サーバー上の適切な場所に抽出されます。



---

# デフォルトのプロジェクト・ドキュメント 情報の設定

## 概要

- 5-2 ページの「デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の概要」

## タスク

- 5-2 ページの「デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定」

## 5.1 デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の概要

デザイナーで Web サイトを作成する場合、Site Studio で XML ベースのプロジェクト・ファイルが生成され、指定されたメタデータ値でコンテンツ・サーバーにチェックインされます。デフォルトのドキュメント情報で、自動的に入力されるフィールドを指定します。

デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報は、Web サイト・セクションへの入力を簡単にし、それらをグループ化してコンテンツ・サーバーで使用しやすくするために役立ちます。

## 5.2 デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定

デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報を入力するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「Site Studio Administration」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「Site Studio 管理」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「Set Default Project Document Information」をクリックします。  
「Set Default Project Document Information」ページが表示されます（A-12 ページの「Set Default Project Document Information」ページを参照）。
4. デフォルト値の情報を、適切なフィールドに入力します。すべての必須メタデータ・フィールドには、赤いフィールド・ラベルが表示されます。デフォルト情報が不要なフィールドまたは入力してはいけないフィールドは、空白のままにします。
5. 「Update」をクリックします（ページの下部）。

---

---

## サイト・レプリケーションの管理

### 概要

- 6-2 ページの「サイト・レプリケーションの概要」
- 6-2 ページの「レプリケーション・プロセス」
- 6-3 ページの「レプリケートの内容」
- 6-3 ページの「含まれるリビジョン」
- 6-4 ページの「追加のエクスポート設定」

### タスク

- 6-4 ページの「レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成」
- 6-5 ページの「ソース・サーバー上での送信プロバイダの設定」
- 6-6 ページの「ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブの設定」
- 6-7 ページの「ソース・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの設定」
- 6-8 ページの「サイト・レプリケーションの開始」

## 6.1 サイト・レプリケーションの概要

レプリケーションをよく理解するためには、関連する用語およびプロセスについて知る必要があります。Site Studio でのサイトのレプリケーションは、コンテンツ・サーバーのアーカイバ/レプリケータ・ツールに依存しているため、詳細はコンテンツ・サーバーのドキュメントで参照できます。

サイトをレプリケートするには、サイトがコピー先のサーバー（ターゲット・サーバー）上で正常に動作するように手順を実行する必要があります。サーバー環境を準備し、2つのサーバーが互いに通信できるように構成し、両方のサーバーにアーカイブを設定してから、最後に実際のレプリケーションを実行します。

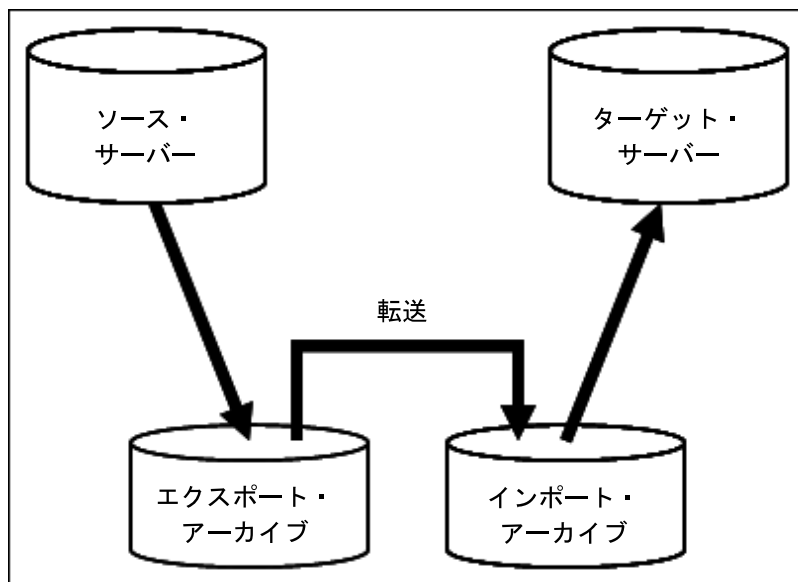
レプリケーション機能の多くは、コンテンツ・サーバーの「Manage Site Replication」ページにあります。Site Studio レプリケータ・ツールを使用してレプリケーションをさらにカスタマイズすることもできます。Site Studio レプリケータは、Site Studio デザイナとともにインストールされ、4つの部分で構成されるウィザードです。デザイナーとともにインストールされるレプリケータの詳細は、『Site Studio デザイナ・ガイド』を参照してください。

サイトをレプリケートする際は、サイト階層、ページ・テンプレート、フラグメント、コントリビュータ・データファイル、ネイティブ・ドキュメント、サイト・アセットなどをコピーします。Site Studio のレプリケーション機能では、コンテンツ・サーバーの既存のレプリケーション・フレームワーク（アーカイバ/レプリケータ）を使用します。

## 6.2 レプリケーション・プロセス

Site Studio のレプリケーション・プロセスには、ソース・サーバー、ターゲット・サーバー、エクスポート・アーカイブ、インポート・アーカイブおよび転送があります。

図 6-1 レプリケーション・プロセス



- **エクスポート**: ネイティブ・ファイル、Web 表示可能ファイル、コンテンツ・タイプおよびユーザー属性が、ソース・コンテンツ・サーバーからエクスポート・アーカイブにコピーされます。
- **インポート**: ファイルおよびコンテンツ・サーバー情報が、インポート・アーカイブからターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーされます。



- **転送**: コンテンツが、コンテンツ・サーバー間で転送されます。この機能を使用して、ファイアウォールを越えて、または同一のファイルシステムにアクセスできない2つのサーバー間でコンテンツをコピーできます。同一のファイルシステムにアクセスできる2つのコンテンツ・サーバー間でもアーカイブを転送できます。
- **レプリケート**: エクスポート、インポートおよび転送ステップを自動化します。レプリケーションを使用して、コンテンツ・サーバーからのエクスポート、別のコンピュータへのアーカイブの転送、および別のコンテンツ・サーバーへのインポートを自動化できます。

コンテンツ・サーバーから別のサーバーにサイトをレプリケートすると、**Site Studio** レプリケーション機能により、サイトのコンテンツがエクスポート・アーカイブにエクスポートされます。このエクスポート・アーカイブのコンテンツは、その後、ターゲット・サーバーにあるインポート・アーカイブにコピーされます。インポート・アーカイブは、目的のサーバーに抽出され、サーバーでサイトの表示および使用が再び可能になります。

エクスポート・アーカイブをソース・サーバーに作成し、インポート・アーカイブをターゲット・サーバーに作成します。ただし、エクスポート・アーカイブの設定の際に指定先ができるように、先にインポート・アーカイブをターゲット・サーバー上に作成する必要があります。

レプリケーション・プロセスには、次の手順が含まれます。

1. 6-4 ページの「[レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成](#)」
2. 6-5 ページの「[ソース・サーバー上での送信プロバイダの設定](#)」
3. 6-6 ページの「[ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブの設定](#)」
4. 6-7 ページの「[ソース・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの設定](#)」
5. 6-8 ページの「[サイト・レプリケーションの開始](#)」

## 6.3 レプリケートの内容

Site Studio レプリケーション機能を使用して、サイトをコンテンツ・サーバー間でレプリケートする場合、次のアイテムが含まれます。

- **プロジェクト・ファイル** (プロジェクト・ファイルの `dDocName`)
- **Web サイト ID** («xWebsites» フィールドにサイトのサイト ID が含まれる場合)
- **Web サイト・セクション** («xWebsiteSection» フィールドにサイトのサイト ID が含まれる場合)
- **フラグメント・ライブラリ** («xWebsiteObjectType» フィールドに値 `fragment` が含まれる場合)

サイトのコンテンツをレプリケートするために、`xWebsites`、`xWebsiteSection` および `xWebsiteObjectType` のメタデータ値を、サイトで適切に使用する必要があります。

## 6.4 含まれるリビジョン

最新のエクスポート日付よりもリリース日付が後であるリビジョンがエクスポートされます。このため、エクスポート済の材料はアーカイブからエクスポートされません。これにより、コンテンツの移行は1度のみとなり、アーカイブのサイズが無制限に増加するのを防ぐことができます。また、エクスポート問合せに一致するコンテンツの選択されたすべてのリビジョンが、アーカイブにエクスポートされます。これはリリース日付フィルタと連携して機能し、必要な Web サイト・コンテンツが確実にレプリケートされます。

## 6.5 追加のエクスポート設定

Site Studio レプリケーション機能には、サイトを正常にレプリケートするための、その他の便利な設定があります。

- 2つのコンテンツ・サーバー間でのメタデータ・モデルの同期化を予定している管理者のために、コンテンツの構成情報が含まれています。(Site Studio では、この情報は使用されません。)
- ソース・アーカイブは、転送所有者（ソース・アーカイブからターゲット・アーカイブへの転送を開始するコンテンツ・サーバー）として識別されます。
- ターゲット・サーバー上のインポート・アーカイブは、ソース・サーバーからエクスポートおよび転送されるマテリアルを受信し、マテリアルをターゲット・サーバーにインポートするターゲット・アーカイブとして識別されます。

## 6.6 レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成

Site Studio レプリケーション機能により、サイトがコンテンツ・サーバー間でコピーされます。ただし、コンテンツ・サーバー環境はソース・サーバーからターゲット・サーバーにコピーされません。

サイトをレプリケートする前に、ターゲット・サーバーのコンテンツ・サーバー環境が、ソース・サーバーと同様に設定されていることを確認する必要があります（少なくともサイトで使用する部分）。この手順を実行しないと、レプリケーション・プロセス中に、Web サイトで問題が発生します。

コンテンツ・サーバー環境を再現する手順は、組織および Web サイトによって異なります。このため、ここでは一般的なガイドラインを説明します。

ターゲット・サーバー環境を手動で構成するには、次の手順を実行します。

1. ソース・サーバー上で使用しているメタデータ・モデルを再作成します。これには、すべてのカスタム・メタデータ・フィールドおよびファイル・フォーマットが含まれます。このメタデータは、サイトが適切に機能するために必要です。たとえば、通常、ファイルのチェックインはメタデータ設定に依存し、サイトの特定の機能はカスタム・メタデータ・フィールドに依存しています。
2. ソース・サーバーのサイトで使用されているすべてのコンポーネントを再インストールします。これには、Dynamic Converter（ネイティブ・ドキュメント用）および Check Out and Open（コントリビューション・アイコンを使用してネイティブ・ドキュメントをチェックアウトするため）が含まれます。システム要件の詳細は、『Site Studio インストール・ガイド』を参照してください。
3. 管理対象外リソースを再作成します。これには、サイトで使用されているカスタム ActiveX コントロールまたは JSP オブジェクトが含まれます。
4. サーバーに導入した追加の構成設定を再作成します。これには、サーバーの動作を変更するすべてのものが含まれます。

Content Server リリース 7.5 以降（10gR3 を含む）を実行している場合、Content Server の構成移行ユーティリティを使用してコンテンツ・サーバー環境をレプリケートできます。次に、送信プロバイダを設定します（6-5 ページの「ソース・サーバー上での送信プロバイダの設定」を参照）。

## 6.7 ソース・サーバー上での送信プロバイダの設定

Content Server のプロバイダとは、複数のコンテンツ・サーバー間で接続を確立する API (Application Program Interface) です。Web サイトをレプリケートするには、ソース・サーバー上に送信プロバイダを作成し、ソース・サーバーとターゲット・サーバー間の接続を確立する必要があります。

ターゲット・サーバーを構成すると (6-4 ページの「レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成」を参照)、ソース・サーバー上で送信プロバイダを設定できます。

ソース・サーバー上で送信プロバイダを設定するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Providers」をクリックします。  
「Providers」ページが表示されます。
3. 「Create a New Provider」の下で、「outgoing」プロバイダ・タイプの隣の「Add」をクリックします。  
「Add Outgoing Provider」ページが表示されます。
4. 次の情報を入力します。
  - **Provider Name:** プロバイダを識別する名前。この名前は、このページのプロバイダ・リストに (名前を追加した後に) 表示され、ソース・サーバー上の `[CS-Dir]/data/providers` のサブディレクトリになります。
  - **Provider Description:** プロバイダのわかりやすい説明。
  - **Provider Class:** `intradoc.provider.SocketOutgoingProvider` (送信プロバイダの Java クラスの名前) を入力します。
  - **Connection Class:** `intradoc.provider.SocketOutgoingConnection` (プロバイダ接続を実装する Java クラスの名前) を入力します。
  - **Configuration Class:** 空白のままかまいません (データベース・プロバイダにとって有用な、追加構成設定の Java クラスを識別します)。
  - **Server Host Name:** ターゲット・サーバーの名前 (通常は、システム名または IP アドレス)。このホストにソケット接続します。
  - **HTTP Server Address:** 空白のままかまいません (ターゲット・サーバーの HTTP アドレスで、このタイプの接続には不要です)。
  - **Server Port:** ターゲット・サーバーとの通信に使用するポート (通常は 4444)。コンテンツ・サーバーを起動する際に、サーバー出力を表示してポートを確認できます。
  - **Instance Name:** ターゲット・コンテンツ・サーバーの名前 (IDC\_Name)。
  - **Relative Web Root:** ターゲット・コンテンツ・サーバーの相対的な Web ルート (たとえば /root/)。このタイプの接続には必要ないため、残りの手順をスキップできます。
5. 「Add」をクリックしてプロバイダ情報を保存し、「Providers」ページに戻ります。(プロバイダ・リストに送信プロバイダが表示されます。)
6. コンテンツ・サーバーを再起動します。

プロバイダをテストして、正常に設定されていることを確認するには、「Providers」ページに戻り、「outgoing provider」の隣の「Test」をクリックします。

ソース・サーバーがターゲット・サーバーと通信できるように、送信プロバイダの設定に加えて、さらにターゲット・システムでサーバー IP アドレス・フィルタを構成する必要があります (詳細は、Content Server のドキュメントを参照してください)。

ファイアウォールがある場合、手順 4 で定義したポート上でソース・サーバーからターゲット・サーバーへの通信を許可する必要があります。

次に、インポート・アーカイブを作成します (6-6 ページの「[ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブの設定](#)」を参照)。

## 6.8 ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブの設定

インポート・アーカイブはターゲット・コンテンツ・サーバー上にあります。レプリケーション中に、(ソース・サーバー上にある) エクスポート・アーカイブのコンテンツは、インポート・アーカイブにコピーされます。次に、インポート・アーカイブのコンテンツがターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーされると、レプリケーション・プロセスが終了します。

プロバイダ接続を設定すると (6-5 ページの「[ソース・サーバー上での送信プロバイダの設定](#)」を参照)、インポート・アーカイブを作成できます。ターゲット・サーバー上の「[Manage Site Replication](#)」ページで、インポート・アーカイブを作成 (または編集) します。

インポート・アーカイブを設定するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「[Site Studio Administration](#)」を選択します。  
「[Site Studio Administration](#)」ページが表示されます (1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照)。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「[Site Studio Administration](#)」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「[Manage Site Replication](#)」をクリックします。  
「[Manage Site Replication](#)」ページが表示されます (A-13 ページの「[Manage Site Replication](#)」ページを参照)。
4. 「[Add Import Archive...](#)」をクリックします。  
「[Add Import Archive](#)」ページが表示されます (A-18 ページの「[Add Import Archive](#)」ページを参照)。  
または、既存のインポート・アーカイブを更新する場合には、アーカイブのリストで選択して「[Change Settings...](#)」をクリックします。
5. 「[Archive Name](#)」フィールドにアーカイブの名前を入力します。この名前は、「[Manage Site Replication](#)」ページの使用可能なアーカイブのリストに表示されます。アーカイブ名には、空白や特殊文字を含めないでください。
6. 「[Archive Description](#)」フィールドにアーカイブの説明を入力します。
7. コントリビュータがターゲット・サイトの各リージョンに割り当てるコンテンツを保持するには、「[Retain switched region content on target server during import](#)」チェック・ボックスを選択します。

これは、コントリビュータが、リージョンに最初に割り当てられたコントリビュータ・データファイルまたはネイティブ・ドキュメントを切り替えた領域です。

通常、開発サーバー (ソース) からコントリビューション・サーバー (ターゲット) にレプリケートする場合は、切り替えられたリージョン・コンテンツを保持します。このシナリオでは、コントリビュータによる変更を維持するためです。

コントリビューション・サーバー (ソース) から消費サーバー (ターゲット) にレプリケートする場合は、このオプションを無効化することがあります。このシナリオでは、消費サーバー上の変更を上書きするためです。

8. コントリビュータがターゲット・サイトの各リージョンで編集するコンテンツを保持するには、「**Retain region content on target server during import**」チェック・ボックスを選択します。

これにより、コントリビュータが編集したファイルを上書きする可能性のあるコントリビュータ・データファイルおよびネイティブ・ドキュメントが、ソース・サーバーからターゲット・サーバーにコピーされなくなります。

通常、開発サーバー（ソース）からコントリビューション・サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合、リージョン・コンテンツを保持します。このシナリオでは、コントリビュータによる変更を保持するためです。

コントリビューション・サーバー（ソース）から消費サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合は、このオプションを無効化することがあります。このシナリオでは、消費サーバー上の変更を上書きするためです。

9. 「**Add Archive**」をクリックします。

または、既存のインポート・アーカイブを更新する場合は、「**Update**」をクリックします。

次に、エクスポート・アーカイブを作成します（6-7 ページの「[ソース・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの設定](#)」を参照）。

## 6.9 ソース・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの設定

エクスポート・アーカイブは、ソース・コンテンツ・サーバー上にあり、Web サイトの情報を収集します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブは、ターゲット・サーバー上にあるインポート・アーカイブにコピーされます。（エクスポート・アーカイブを作成する際に指定できるように、先にインポート・アーカイブを作成する必要があります。）

インポート・アーカイブを作成すると（6-6 ページの「[ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブの設定](#)」を参照）、エクスポート・アーカイブを作成できます。ソース・サーバー上の「**Manage Site Replication**」ページを使用して、エクスポート・アーカイブを作成（または編集）できます。

エクスポート・アーカイブを設定するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「**Administration**」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「**Site Studio Administration**」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「**Top Menus**」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「**Site Studio Administration**」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Manage Site Replication**」をクリックします。  
「**Manage Site Replication**」ページが表示されます（A-13 ページの「[Manage Site Replication](#)」ページを参照）。
4. 「**Add Export Archive**」をクリックします。  
「**Add Export Archive**」ページが表示されます（A-15 ページの「[Add Export Archive](#)」ページを参照）。  
または、既存のエクスポート・アーカイブを更新する場合には、アーカイブのリストで選択して「**Change Settings...**」をクリックします。
5. 「**Archive Name**」フィールドにアーカイブの名前を入力します。この名前は、「**Manage Site Replication**」ページの使用可能なアーカイブのリストに表示されます。アーカイブ名には、空白や特殊文字を含めないでください。
6. 「**Archive Description**」フィールドにアーカイブの説明を入力します。
7. 「**Web Site**」で、レプリケートする Web サイトを選択します。

8. サイト階層全体をレプリケートする場合は、「**Include project file in export archive**」チェック・ボックスを選択します。  
サイト階層全体をレプリケートするかわりに、個別のセクションをレプリケートする場合は、このチェック・ボックスの選択を解除して次の手順に進み、**Site Studio** レプリケータ・ツールを使用します（『**Site Studio デザイナ・ガイド**』を参照）。
9. 「**Transfer to Collection**」で、このアーカイブのコピー先のターゲット・コンテンツ・サーバー上にあるコレクションを選択します。  
「**Open Collection...**」をクリックし、ターゲット・サーバー上のコレクションを参照して選択します。
10. 「**Transfer to Archive**」で、このエクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバー上にあるアーカイブを選択します（6-6 ページの「**ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブの設定**」を参照）。
11. ソース・サーバー上のコンテンツが変更された際に、常にレプリケーション・プロセスを自動的に開始する場合は、「**Automatically export new and changed content**」チェック・ボックスを選択します。（このオプションを有効化しない場合、手動でレプリケーションをトリガーする必要があります。）
12. 「**Add Archive**」をクリックします。  
または、既存のエクスポート・アーカイブを更新する場合は、「**Update**」をクリックします。

エクスポート・アーカイブのための Web サイトを選択すると、**Site Studio** では、サイトに関連するすべてのものをアーカイブおよびレプリケートします（6-3 ページの「**レプリケートの内容**」を参照）。アーカイブされる内容をカスタマイズしたり、アーカイブにアイテムを追加したりするため、コンテンツ・サーバー上のアーカイバ・アプレットを使用して、直接アーカイブ問合せを絞り込むことができます。

次に、レプリケーションを開始します（6-8 ページの「**サイト・レプリケーションの開始**」を参照）。

**Site Studio** レプリケータを使用してサイトの個別のセクションをレプリケートする場合は、次に **Site Studio** レプリケータ・ツールを起動します（『**Site Studio デザイナ・ガイド**』を参照）。

## 6.10 サイト・レプリケーションの開始

エクスポート・アーカイブを設定すると（6-7 ページの「**ソース・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの設定**」を参照）、「**Manage Site Replication**」ページを使用して、ソース・サーバーでレプリケーション・プロセスを開始できます。

Web サイトをレプリケートするには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「**Administration**」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「**Site Studio Administration**」ページが表示されます（1-7 ページの「**Site Studio 管理**」を参照）。
3. 「**Manage Site Replication**」をクリックします。  
「**Manage Site Replication**」ページが表示されます（A-13 ページの「**Manage Site Replication** ページ」を参照）。
4. エクスポート・アーカイブを選択します。
5. 「**Export**」をクリックします。

新しいコンテンツおよび変更されたコンテンツの自動エクスポートを選択した場合（6-7 ページの「**ソース・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの設定**」を参照）、アーカイブのエクスポート後に、レプリケーション・プロセスが自動的に開始されます。

サイトのサイズおよび複雑さによっては、レプリケーションの終了後、ターゲット・コンテンツ・サーバーでサイトが再度索引化されるまでに、かなりの時間が必要です。

---

# Web サイトのバックアップおよびリストア

## 概要

- 7-2 ページの「バックアップとリストアの概要」

## タスク

- 7-2 ページの「サイトのバックアップ」
- 7-4 ページの「サイトのリストア」
- 7-6 ページの「サーバー構成の詳細の表示」

## 7.1 バックアップとリストアの概要

Site Studio では、コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページにバックアップおよびリストア機能があり、この機能を使用して、いつでもサイトのバックアップを（単一の ZIP ファイルとして）作成し、そのバックアップをリストアできます。サイトのバックアップの作成は、サイトを別の場所に転送する（特に、ネットワーク・アクセスのない場合）際にも、大変便利です。

Site Studio のバックアップ機能では、Web サイトのコピーを作成して圧縮ファイルに格納し、このファイルのある場所から別の場所にコピーできます。サイトに属するファイルを識別するために、次のアイテムを問い合せて、インポート・アーカイブに追加します。

- **プロジェクト・ファイル**（プロジェクト・ファイルの dDocName）
- **Web サイト ID**（「xWebsites」フィールドにサイトのサイト ID が含まれる場合）
- **Web サイト・セクション**（「xWebsiteSection」フィールドにサイトのサイト ID が含まれる場合）
- **フラグメント・ライブラリ**（「xWebsiteObjectType」フィールドに値 fragment が含まれる場合）

サイトのコンテンツをバックアップおよびリストアするために、xWebsites、xWebsiteSection および xWebsiteObjectType のメタデータ値を、サイトで適切に使用する必要があります。

バックアップ機能では、サイトのレプリケーションと同一のアーカイブ・プロセスが使用されます（詳細は、第 6 章「[サイト・レプリケーションの管理](#)」を参照）。

## 7.2 サイトのバックアップ

コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページからアクセスできる「Backup and Restore」ページを使用して、サイトをバックアップします。

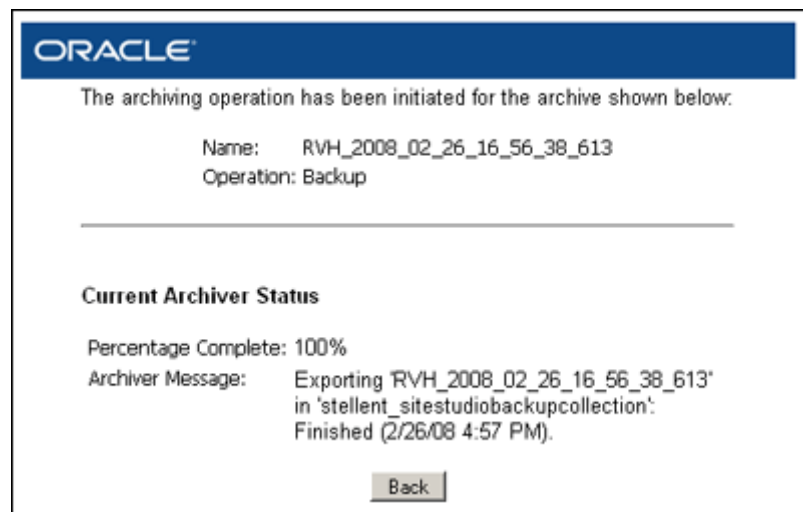
サイトをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Backup and Restore**」をクリックします。  
「Backup and Restore」ページが表示されます（A-23 ページの「[Backup and Restore](#) ページ」を参照）。



- バックアップする Web サイトを選択し、「**Create Web Site Backup**」をクリックします。バックアップの進行状況が表示されます (図 7-1)。

図 7-1 バックアップの進行状況



- バックアップが完了したら (完了パーセンテージが 100%)、「**Back**」をクリックします。現在のバックアップに影響を与えることなく、いつでも前のページに戻ることができます。
- 「Backup and Restore」ページで、「**Manage Web Site Backups**」をクリックします。「Web Site Backup Archives」ページが表示されます (A-24 ページの「[Web Site Backup Archives](#)」ページを参照)。
- このページには、現在コンテンツ・サーバーにあるすべての Web サイト・バックアップのリストが表示されます。作成したバックアップをダウンロードするには、隣のアクション・メニュー・アイコン (図 7-2) をクリックし、「**Download backup archive as ZIP**」を選択します。

図 7-2 アクション・メニュー・アイコン



- サイトのサイズによっては、ZIP ファイルが作成されるまでに数分かかる場合があります。
- ファイル・ダウンロード・ダイアログの「**Save**」をクリックして ZIP ファイルの場所を選択し、「**Save**」をクリックしてダウンロードを開始します。

---

**注意：** Web サイトが、ZIP ファイルの最大ファイルの制限である 65,535 を超える場合、バックアップ・アーカイブ・ファイルは作成されません。そのかわり、ファイルシステムから直接バックアップ・アーカイブを開いてダウンロードする必要があります。バックアップ・アーカイブは、コンテンツ・サーバーの `[CS-Dir]\data\sitestudio\backuparchives` ディレクトリに格納されます。

---

バックアップしたサイトは、アクション・メニュー・アイコンをクリックし、「**Delete backup archive**」を選択して、いつでも削除できます。これは、「Web Site Backup Archives」ページ (A-24 ページの「[Web Site Backup Archives](#)」ページを参照) および「Backup Archive Information」ページ (A-25 ページの「[Backup Archive Information](#)」ページを参照) で実行できます。

## 7.3 サイトのリストア

コンテンツ・サーバーの「Site Studio Administration」ページからアクセスできる「Backup and Restore」ページを使用してサイトをリストアします。

---

**重要：** コンテンツ・サーバー内の既存のコンテンツとのクラッシュを避けるために、クリーンなコンテンツ・サーバーにリストアすることをお勧めします。

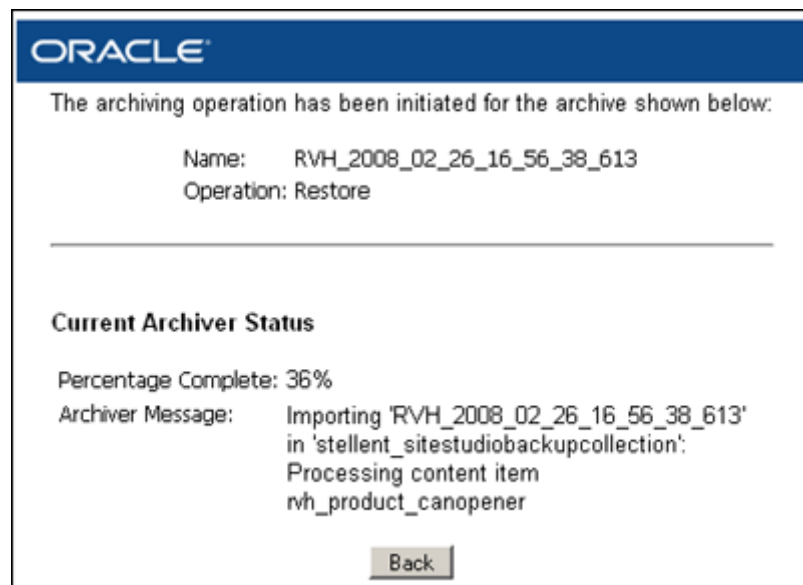
---

サイトをリストアするには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「**Site Studio Administration**」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「**Site Studio 管理**」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「**Backup and Restore**」をクリックします。  
「Backup and Restore」ページ（A-23 ページの「**Backup and Restore**」ページ）を参照が表示されます。
4. 「**Browse**」を（「Upload Backup Archive」領域で）クリックして、バックアップ済サイト（ZIP ファイル）を検索します。  
ファイル選択ダイアログが表示されます。
5. アーカイブ ZIP ファイルを選択し、ファイル選択ダイアログを閉じます。
6. 「**Upload Backup Archive**」をクリックします。  
「Backup Archive Information」ページ（A-25 ページの「**Backup Archive Information**」ページ）を参照）が表示されます。ここで、アーカイブ名、説明、Web サイトおよびインポートの日付を含むバックアップの詳細を確認できます。  
コンテンツ・サーバーが未構成で、サイトの元のコンテンツ・サーバー環境と一致しない場合、「**Action**」をクリックし、「**Show server configuration details**」を選択します。ページに表示された設定を再作成します（7-6 ページの「**サーバー構成の詳細の表示**」を参照）。
7. 「**Action**」メニューで、「**Restore backup archive contents**」を選択します。

8. 「OK」をクリックしてメッセージを確認します。  
リストア操作の進行状況が表示されます (図 7-3)。

図 7-3 リストアの進行状況



サイトのサイズによっては、Web サイトがリストアされ、コンテンツ・サーバーで索引化されるまでに数分かかる場合があります。

9. リストア操作が完了したら (完了パーセンテージが 100%)、「Back」をクリックします。  
現在のリストア操作に影響を与えることなく、いつでも前のページに戻ることができます。  
これで、サイトをコンテンツ・サーバーで使用できるようになります。

バックアップしたサイトは、アクション・メニュー・アイコンをクリックし、「Delete backup archive」を選択して、いつでも削除できます。これは、「Web Site Backup Archives」ページ (A-24 ページの「[Web Site Backup Archives](#)」ページ) を参照) および「Backup Archive Information」ページ (A-25 ページの「[Backup Archive Information](#)」ページ) を参照) で実行できます。

## 7.4 サーバー構成の詳細の表示

バックアップ時に、バックアップされた Web サイトを配置したコンテンツ・サーバーの詳細な構成情報を表示できます。この情報には、カスタム・メタデータ・フィールド、コンテンツ・タイプ、セキュリティ・グループ、構成および環境設定、インストールされたコンポーネント、定義されたプロバイダなどが含まれます。この情報は、サイトをリストアし、コンテンツ・サーバーを構成してサイトの元のサーバーと一致させる必要がある場合に、特に便利です。

バックアップされたサイトのサーバー構成の詳細を表示するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「Site Studio Administration」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます (1-7 ページの「Site Studio 管理」を参照)。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「Backup and Restore」をクリックします。  
「Backup and Restore」ページ (A-23 ページの「Backup and Restore」ページを参照) が表示されます。
4. Manage Web Site Backups をクリックします。
5. 目的のサイトの隣にあるアクション・メニューアイコン (図 7-4) をクリックし、「Show server configuration details」を選択します。

図 7-4 アクション・メニュー・アイコン



6. 「Server Configuration Details」ページ (A-26 ページの「Server Configuration Details」ページを参照) が表示されます。ここで、サイトの元のサーバーの詳細を書き留めます。

---

**注意：** Content Server の構成移行ユーティリティを使用して、コンテンツ・サーバー環境をサーバーからサーバーにレプリケートできます。

---

---

## 一般コンポーネント情報

### 概要

- 8-2 ページの「一般コンポーネント情報の概要」

### タスク

- 8-2 ページの「一般コンポーネント情報の表示」

## 8.1 一般コンポーネント情報の概要

インストール済の Site Studio コンポーネント、Site Studio 固有のメタデータ、ディレクトリ・パス、バージョンおよびその他の情報は、「General Component Information」ページで確認できます。この情報は、Web サイトおよびフラグメントのバージョン番号および相対パスを書き留める際に便利です。

## 8.2 一般コンポーネント情報の表示

Site Studio の一般コンポーネント情報を表示するには、次の手順を実行します。

1. コンテンツ・サーバーに、管理者としてログインします。
2. 「Administration」セクションで、「Site Studio Administration」を選択します。  
「Site Studio Administration」ページが表示されます（1-7 ページの「[Site Studio 管理](#)」を参照）。Content Server を「Top Menus」レイアウトで実行している場合、このページは表示されません。そのかわり、すべての管理オプションが「Site Studio Administration」メニューのアイテムとして使用できます。
3. 「General Component Information」をクリックします。  
「General Component Information」ページが表示されます（A-22 ページの「[General Component Information](#)」ページを参照）。

---

---

## ユーザー・インタフェース

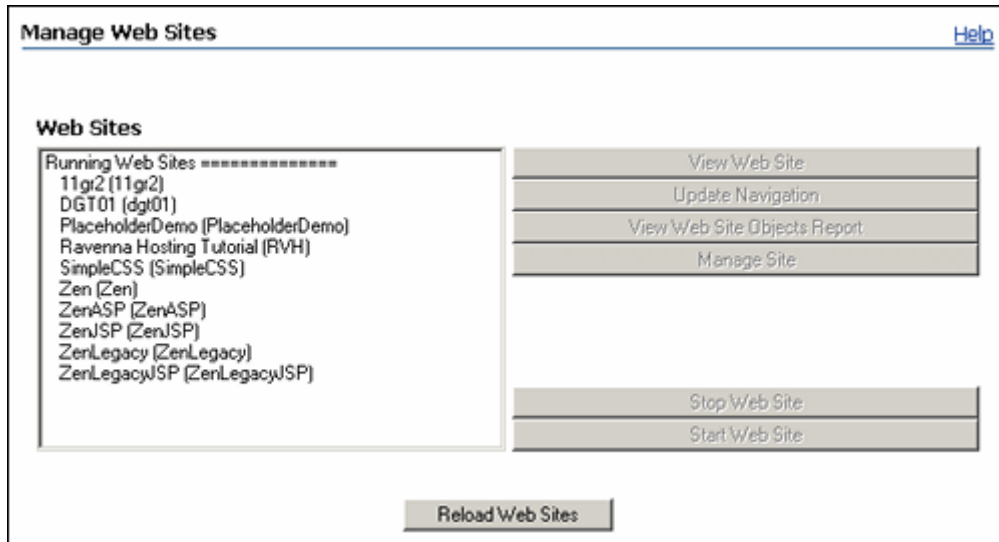
Content Server インタフェースには、Site Studio Web サイトの管理に使用できるページが含まれています。

- A-2 ページの「[Manage Web Sites](#) ページ」
- A-3 ページの「[Manage Site Page](#) ページ (Site Studio マネージャ)」
- A-9 ページの「[Web Site Objects Report](#) ページ」
- A-10 ページの「[Web Site Addresses](#) ページ」
- A-11 ページの「[Manage Fragment Libraries](#) ページ」
- A-12 ページの「[Set Default Project Document Information](#) ページ」
- A-13 ページの「[Manage Site Replication](#) ページ」
- A-15 ページの「[Add Export Archive](#) ページ」
- A-16 ページの「[Edit Export Archive](#) ページ」
- A-18 ページの「[Add Import Archive](#) ページ」
- A-20 ページの「[Edit Import Archive](#) ページ」
- A-22 ページの「[General Component Information](#) ページ」
- A-23 ページの「[Backup and Restore](#) ページ」
- A-24 ページの「[Web Site Backup Archives](#) ページ」
- A-26 ページの「[Server Configuration Details](#) ページ」
- A-25 ページの「[Backup Archive Information](#) ページ」

## A.1 「Manage Web Sites」 ページ

「Manage Web Sites」 ページを使用して、コンテンツ・サーバー上の使用可能なすべての Web サイトを管理します。このマニュアルで説明されているように、ここから、Web サイトの表示、オブジェクト・レポートの表示、Web サイトの開始や停止（表示可能または表示不可）、および選択した各 Web サイトの管理制御を実行できます。

図 A-1 「Manage Web Sites」 ページ



要素	説明
Web Sites	これは、コンテンツ・サーバーで管理するすべての Web サイトのリストです。現在実行中で使用可能なすべてのサイトは「Running Web Sites」の下、実行中ではないすべてのサイトは「Stopped Web Sites」の下にリストされています。
View Web Site	このボタンをクリックして、選択した Web サイトをブラウザで表示します。
Update Navigation	このボタンをクリックして、選択した Web サイトのナビゲーションを更新します。サイト・マネージャは、ディレクトリおよびサブディレクトリの追加と削除、または Web サイトの別の領域へのディレクトリの移動などを実行して、Web サイトの構造を変更できます。サイト構造を変更する場合、すべてのサイト・ナビゲーションを更新（再構築）する必要があります。
View Web Site Objects Report	このボタンをクリックして、選択したサイトの「Web Site Objects Reports」ページ（A-9 ページの「 <a href="#">Web Site Objects Report</a> ページ」を参照）を表示します。このページには、Web サイトの各部分での使用アクティビティの詳細が表示されます。
Manage Site	このボタンをクリックして、選択したサイトの「Manage Site」ページ（A-3 ページの「 <a href="#">Manage Site Page</a> ページ（Site Studio マネージャ）」を参照）を表示します。このページを使用して、サイト階層の変更、ページ・テンプレートの割当ておよびカスタム・プロパティの変更など、複数のサイト管理タスクを実行できます。
Stop Site	このボタンをクリックして、選択したサイトを停止します。サイトは、「Web Sites」領域の「Running Web Sites」リストから「Stopped Web Sites」リストに移動します。

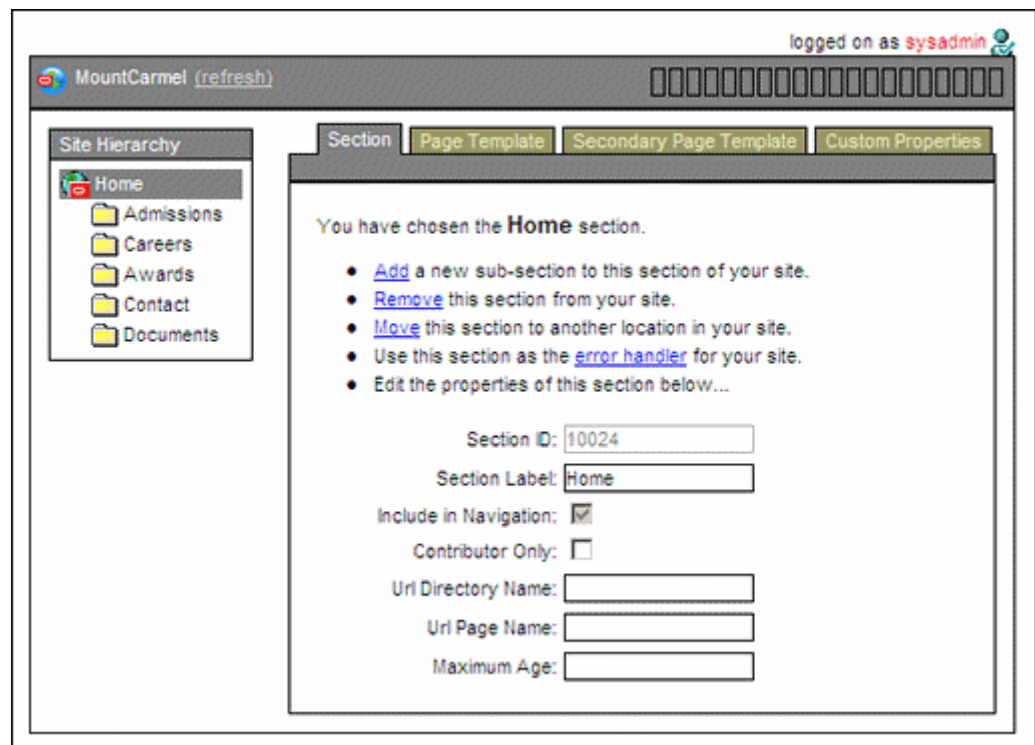


要素	説明
Start Site	このボタンをクリックして、選択したサイトを開始します。サイトは、「Web Sites」領域の「Stopped Web Sites」リストから「Running Web Sites」リストに移動します。
Reload Web Sites	このボタンをクリックして、ページをリロードします。サイトを開始または停止した場合、実行中および停止中の Web サイトのリストを時折リフレッシュして現在のステータスを反映する必要があります。

## A.2 「Manage Site Page」 ページ (Site Studio マネージャ)

「Manage Site」 ページを使用して、Web サイトの管理タスクを実行します。このページは、コンテンツ・サーバーまたは Site Studio コントリビュータ (デザイナーが設定している場合) を通じてアクセスできます。コントリビュータのページにマネージャ・フラグメントが表示されていて、ページがコントリビューション・モードである場合は、サイト・マネージャが使用可能なツールがアプリケーション内に表示されます。ツールは最小化された状態 (トップ・バーのみの場合)、またはページ内にインタフェースが完全に表示された状態で表示されます。マネージャ・インタフェースを完全に表示するには、バーの「manage site」をクリックします。コンテンツ・サーバーを通じてアクセスすると、インタフェースは完全に表示されます。

図 A-2 マネージャ・インタフェース



左に現在の Web サイトのサイト階層が表示されます。アイテムをクリックして、管理タスクを実行できます。

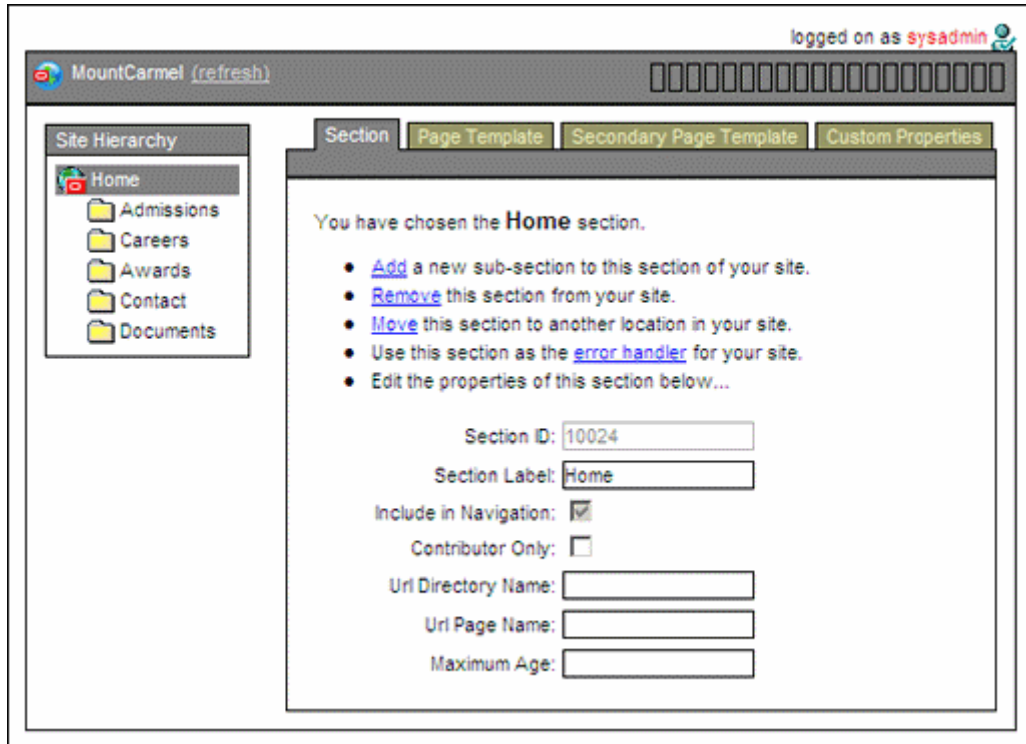
このページにはタブが 4 つあり、それぞれで特定のサイト管理オプションを使用できます。

- 「Section」 タブ
- 「Page Template」 タブ
- 「Secondary Page Template」 タブ
- 「Custom Properties」 タブ

## A.2.1 「Section」 タブ

「Manage Site」 ページの「Section」 タブを使用して、Web サイトの階層内のセクションを管理します。これには、サブセクションの追加と削除、セクションの移動および Web サイトのエラー・ハンドラ・セクションのマークが含まれます。

図 A-3 「Manage Site」 ページの「Section」 タブ



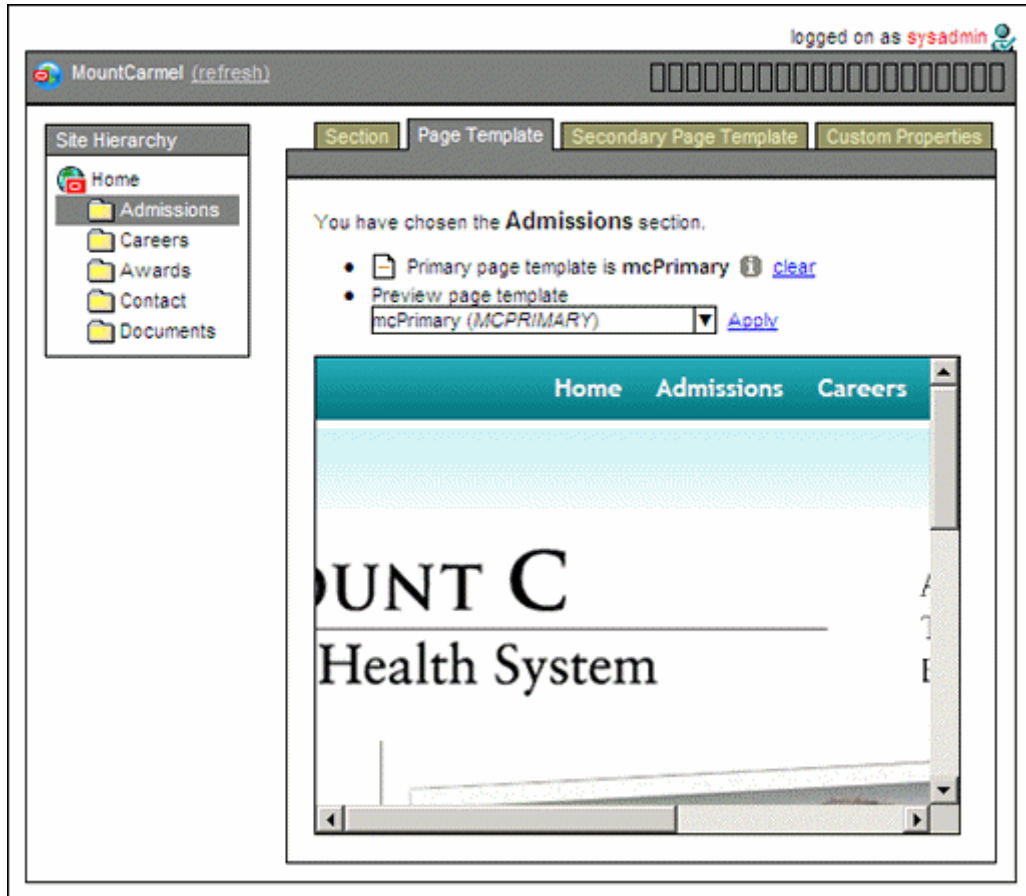
要素	説明
Add	現在のセクションにサブセクションを追加する場合にクリックします。詳細は、2-4 ページの「 <a href="#">セクションの追加</a> 」を参照してください。
Remove	Web サイトから現在のセクションを削除する場合にクリックします。詳細は、2-5 ページの「 <a href="#">セクションの削除</a> 」を参照してください。
Move	サイト階層内の別の領域にセクションを移動する場合にクリックします。詳細は、2-6 ページの「 <a href="#">セクションの移動</a> 」を参照してください。
error handler	現在のセクションをエラー・ハンドラ・セクションとしてマークする場合にクリックします。詳細は、2-9 ページの「 <a href="#">エラー・ハンドラとしてのセクションの指定</a> 」を参照してください。
Section ID	サイト階層 (およびコンテンツ・サーバー) の現在のセクションを一意に識別するセクション ID。変更するとそのセクションをターゲットとするリンクが壊れてしまうため、このフィールドは通常無効化されています。
Section Label	現在のセクションの名前。この名前は、サイト階層および Web サイトのナビゲーション・メニューに表示されます (URL では必ずしも必要ではありません)。必要に応じて、セクション・ラベルを変更できます。詳細は、2-7 ページの「 <a href="#">セクション名の変更</a> 」を参照してください。


要素	説明
Include in Navigation	Web サイトのナビゲーション・メニューにセクションをリンクとして表示する場合、このチェック・ボックスを選択します。詳細は、2-8 ページの「 <a href="#">Web サイトへのセクションの表示または非表示</a> 」を参照してください。
Contributor Only	コントリビューション・モードの場合にのみ現在のセクションを表示する場合、このチェック・ボックスを選択します。これは、コントリビューターと直接通信する場合や、公式に使用可能にする前にコンテンツをプレビューする場合などに便利です。詳細は、2-9 ページの「 <a href="#">コントリビューター専用としてのセクションの指定</a> 」を参照してください。
Url Directory Name	サイト URL に表示される現在のセクションのディレクトリ名。たとえば、 <code>http://www.mysite.com/product1/index.htm</code> というアドレスの場合、URL ディレクトリ名は <code>product1</code> です。この値は、そのセクションへのパスベースのすべてのリンクにも使用されます。デフォルトでは、URL ディレクトリ名はセクション・ラベルと同一ですが、必要に応じて別の値を使用できます。名前には、空白や特殊文字を含めないでください。
Url Page Name	Web サイト・アドレスの (現在のセクションに関連付けられている) プライマリ・ページを表す URL。URL ページ名を指定しない場合、 <code>index.htm</code> を使用してプライマリ・ページが表されます。
Maximum Age	現在のセクションの Web サイト・ページがキャッシュに残る最大時間 (秒単位)。これにより、Site Studio Web サイトのパフォーマンスおよびセキュリティが向上します。詳細は、2-10 ページの「 <a href="#">セクションの最大経過時間の変更</a> 」を参照してください。

## A.2.2 「Page Template」 タブ

「Manage Site」 ページの「Page Template」タブを使用し、現在のページ・テンプレートを適用した Web ページを表示します。現在のセクションに、その他のページ・テンプレートを適用してプレビューすることもできます。

図 A-4 「Manage Site」 ページの「Page Template」 タブ

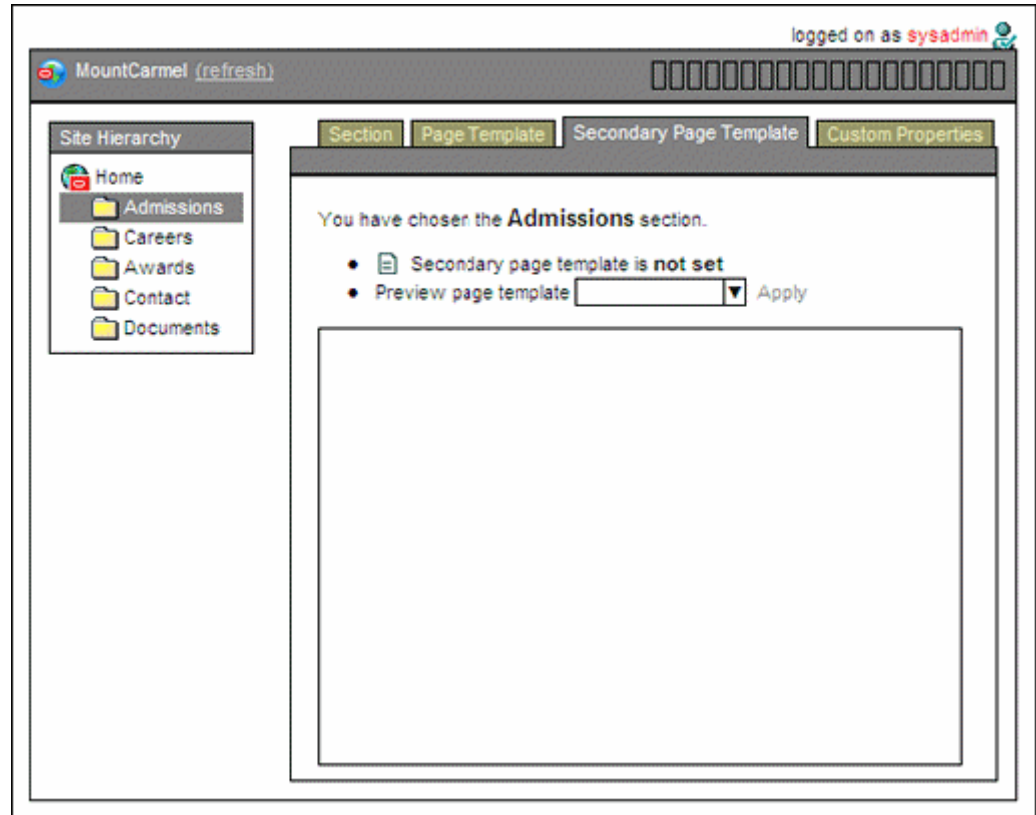



要素	説明
	このアイコンをクリックすると、現在のページ・テンプレートのコンテンツ情報ページが表示されます。ページ・テンプレートが設定されていない場合には表示されません。
clear	現在のセクションからページ・テンプレートを削除する場合にクリックします。ページ・テンプレートが設定されていない場合には表示されません。詳細は、2-13 ページの「セクションからのページ・テンプレートの削除」を参照してください。
Preview page template (メニュー)	現在のセクション内に表示するページ・テンプレートをリストから選択します。詳細は、2-11 ページの「ページ・テンプレートのプレビュー」を参照してください。
Apply	選択したページ・テンプレートを現在のセクションに適用する場合にクリックします。詳細は、2-12 ページの「セクションへのプライマリ・ページの割当て」を参照してください。

## A.2.3 「Secondary Page Template」 タブ

「Manage Site」 ページの「Secondary Page Template」 タブを使用し、現在のセカンダリ・ページ・テンプレートを使用した Web ページを表示します。現在のセクションに、その他のページ・テンプレートを適用してプレビューすることもできます。

図 A-5 「Manage Site」 ページの「Secondary Page Template」 タブ (ページが選択されていない状態)

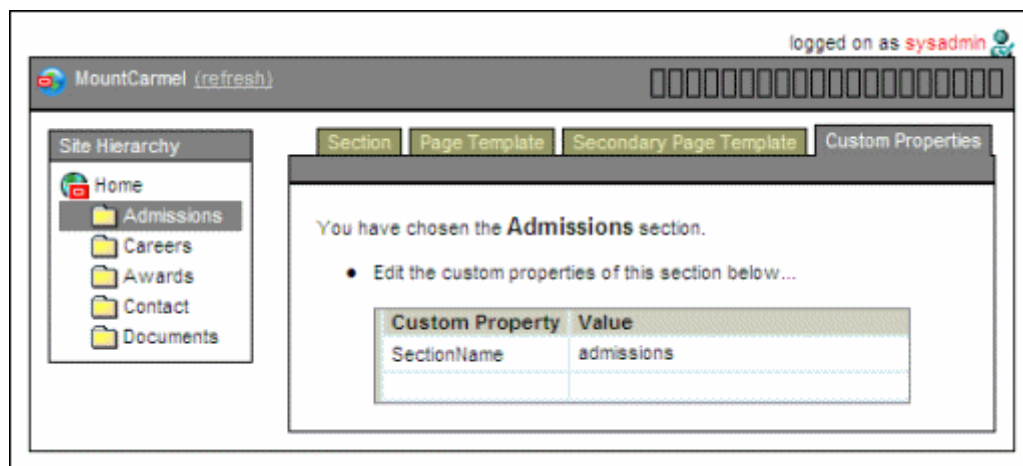


要素	説明
	このアイコンをクリックすると、現在のページ・テンプレートのコンテンツ情報ページが表示されます。セカンダリ・ページ・テンプレートが設定されていない場合には表示されません。
clear	現在のセクションからページ・テンプレートを削除する場合にクリックします。セカンダリ・ページ・テンプレートが設定されていない場合には表示されません。詳細は、2-13 ページの「 <a href="#">セクションからのページ・テンプレートの削除</a> 」を参照してください。
Preview page template (メニュー)	現在のセクション内に表示するページ・テンプレートをリストから選択します。詳細は、2-11 ページの「 <a href="#">ページ・テンプレートのプレビュー</a> 」を参照してください。
Apply	選択したページ・テンプレートを現在のセクションに適用する場合にクリックします。詳細は、2-13 ページの「 <a href="#">セクションへのセカンダリ・ページの割当て</a> 」を参照してください。

## A.2.4 「Custom Properties」 タブ

「Manage Site」 ページの「Custom Properties」タブを使用し、サイト階層の選択したセクションのカスタム・プロパティ情報を編集します。すべてのカスタム・プロパティは、サイト・デザイナーによって決定されます。マネージャは、セクション・プロパティの追加や編集はできず、値の編集のみが可能です。

図 A-6 「Manage Site」 ページの「Custom Properties」 タブ



---

**注意:** カスタム・プロパティの正しい使用方法については、サイト・デザイナーに問い合せてください。

---

## A.3 「Web Site Objects Report」 ページ

「Web Site Objects Report」 ページには、レポートのマークがあるすべての Web サイト・オブジェクトのサイト使用状況についてのレポートが表示されます。ページ・テンプレート、コントリビュータ・データファイル、ページ・テンプレート・フラグメント、フラグメント・ライブラリ、Web サイト・アセット、Web サイト・プロジェクトなどのオブジェクト・カテゴリの情報を表示できます。

図 A-7 「Web Site Objects Report」 ページ

**Web Site Objects Report for 'MountCarmel'**



---

The following reports list the objects used by the web site 'MountCarmel'.

<a href="#">Page Templates</a>	Lists page templates referenced by sections of the web site
<a href="#">Contributor Data Files</a>	Lists data files referenced by sections of the web site
<a href="#">Page Template Fragments</a>	Lists fragments used by the page templates of the web site
<a href="#">Fragment Libraries</a>	Lists fragment libraries used by the page templates of the web site
<a href="#">Web Site Assets</a>	Lists documents declared to belong to the web site
<a href="#">Web Site Project</a>	Lists the project associated with the web site

---

Page Templates

Content ID	Usage Detail	Info
mc_home	/	
mcPrimary	<a href="#">/Admissions.xcxc</a> <a href="#">/Careers</a> <a href="#">/Awards</a> <a href="#">/Awards/x</a> <a href="#">/Documents</a> <a href="#">/Documents/Test</a>	

### 要素

### 説明

オブジェクト・カテゴリ 任意のオブジェクト・カテゴリをクリックして、カテゴリ固有のレポートを表示します。

Content ID コンテンツ・サーバー内のオブジェクトのコンテンツ ID。

Usage Detail Web サイト・オブジェクトおよび参照先の詳しい情報。



このアイコンをクリックすると、オブジェクトのコンテンツ情報ページが表示されます。

## A.4 「Web Site Addresses」 ページ

「Web Site Addresses」 ページを使用して、コンテンツ・サーバー上の使用可能なすべての Web サイトのサイト・アドレスを管理します。定義済サイト・アドレスを表示し、アドレスの追加または既存のアドレスの削除ができます。

サイトにアクセスするには、フォルダ・アドレスを使用する方法またはドメイン・アドレスを使用する方法があります。サイトを初めて設定する際、`http://MyComputer/MySite` ("MyComputer" はシステムの名前、"MySite" はサイト ID) のようなフォルダ・アドレスを使用できます。ただし、いずれは、便利でよく知られたサイトへのアクセス方法として、`http://www.mycompany.com` ("mycompany.com" はドメイン名) のようなドメイン・アドレスを使用するようになります。

ドメイン・アドレスには、追加の DNS 構成が必要であり、この構成はユーザーまたはサイト管理者が実行する必要があります。

デザイナーの「Sites Address」 ダイアログ・ボックスを使用して、ドメイン・アドレスを構成できます。

図 A-8 「Web Site Addresses」 ページ

The screenshot shows the 'Web Site Addresses' page. At the top right is a 'Help' link. Below it is a table with three columns: 'Web Site Address', 'Web Site', and 'Actions'. The table contains two rows: 'MySite' with 'My Site (MySite)' and 'RVH' with 'Ravenna Hosting Tutorial (RVH)'. Each row has a red arrow icon in the 'Actions' column. Below the table is a section titled 'Add Web Site Address' with a 'Web Site:' dropdown menu and an 'Address:' text input field. An 'Add' button is located below the input fields.

要素	説明
Web Site Addresses	<p>指定したサイトに構成されている既存のサイト・アドレスを表示します。</p> <p>「Action」列のメニュー・アイコンをクリックすると、次のオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Select as Default Web Address:</b> このアドレスをデフォルトのサイト・アドレスに設定します。</li> <li>■ <b>Remove Site Address:</b> Web サイトからこのアドレスを削除します。</li> </ul>
Add Web Site Address	<p><b>Web Site:</b> このメニューを使用して、コンテンツ・サーバー上の Web サイトを選択します。</p> <p><b>Address:</b> 使用するドメイン名を入力します。(複数のドメイン名をサイトに追加できます)</p>
Add	ドメイン名をサイトに追加します。

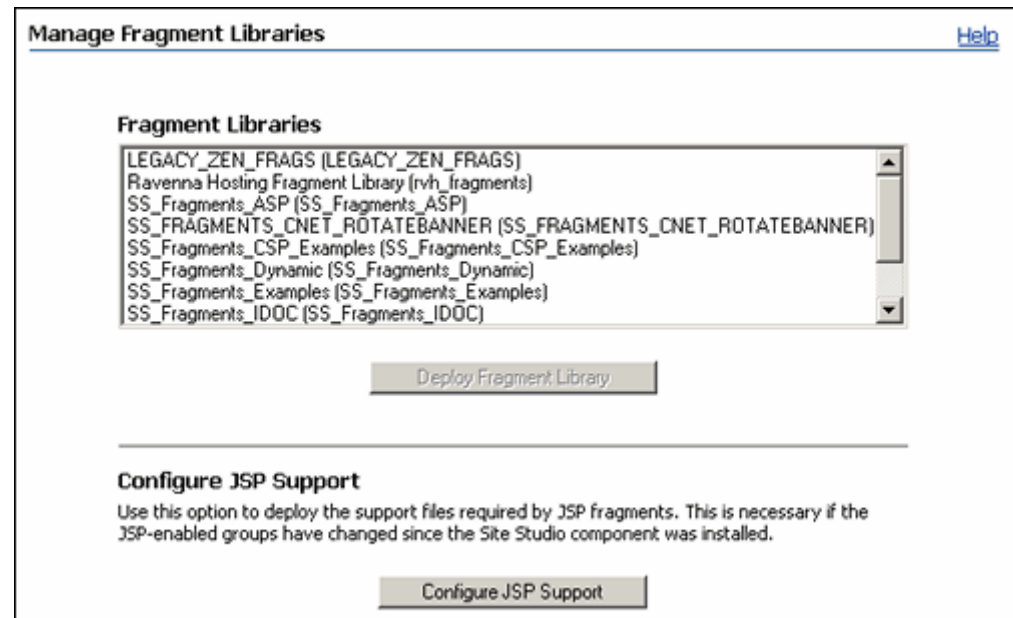


## A.5 「Manage Fragment Libraries」 ページ

「Manage Fragment Libraries」 ページを使用して、フラグメント・ライブラリをコンテンツ・サーバー上の必要な場所にデプロイします。ライブラリは、Web サイトで使用できるように、`[CS-Dir]\weblayout\fragments` ディレクトリに配置する必要があります。これらは、Site Studio のインストールの際、デフォルトでこの場所にデプロイされます。ただし、手動でフラグメント・ライブラリをコンテンツ・サーバーにチェックインする場合には、この場所にデプロイする必要があります。

また、「Manage Fragment Libraries」 ページを使用して、JSP 対応の Web サイトに対する JSP サポートを構成できます。Site Studio コンポーネントのインストール後に、コンテンツ・サーバー内の JSP 対応のグループにグループを追加する場合は、JSP サポート・ファイルを再デプロイ（抽出）して、Site Studio JSP フラグメントが正常に動作するようにする必要があります。

図 A-9 「Manage Fragment Libraries」 ページ



要素	説明
Fragment Libraries	コンテンツ・サーバーに現在チェックインされているすべてのフラグメント・ライブラリを表示します。
Deploy Fragment Library	選択したフラグメント・ライブラリを、コンテンツ・サーバーの必要な場所 ( <code>[CS-Dir]\weblayout\fragments</code> ) にコピーして、Site Studio で使用可能にする場合にクリックします。このボタンを使用可能にするには、リストからフラグメント・ライブラリを選択する必要があります。  このデプロイ方法は、デザイナーの Upload Fragment Library/Download Fragment Library 要素を使用しても実行できます。
Configure JSP Support	JSP フラグメントが適切に動作するように、JSP サポート・ファイルをコンテンツ・サーバー上の必要な場所に再デプロイ（展開）する場合にクリックします。

## A.6 「Set Default Project Document Information」 ページ

「Set Default Project Document Information」 ページを使用して、Site Studio プロジェクト・ファイルのデフォルトのメタデータ（つまり、コンテンツ情報）を定義します。

デザイナーで Web サイトを作成する場合、Site Studio で XML ベースのプロジェクト・ファイルが生成され、指定されたメタデータ値でコンテンツ・サーバーにチェックインされます。デフォルトのドキュメント情報で、自動的に入力されるフィールドを指定します。

デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報は、Web サイト・セクションへの入力を簡単にし、それらをグループ化してコンテンツ・サーバーで使用しやすくするために役立ちます。

図 A-10 「Set Default Project Document Information」 ページ

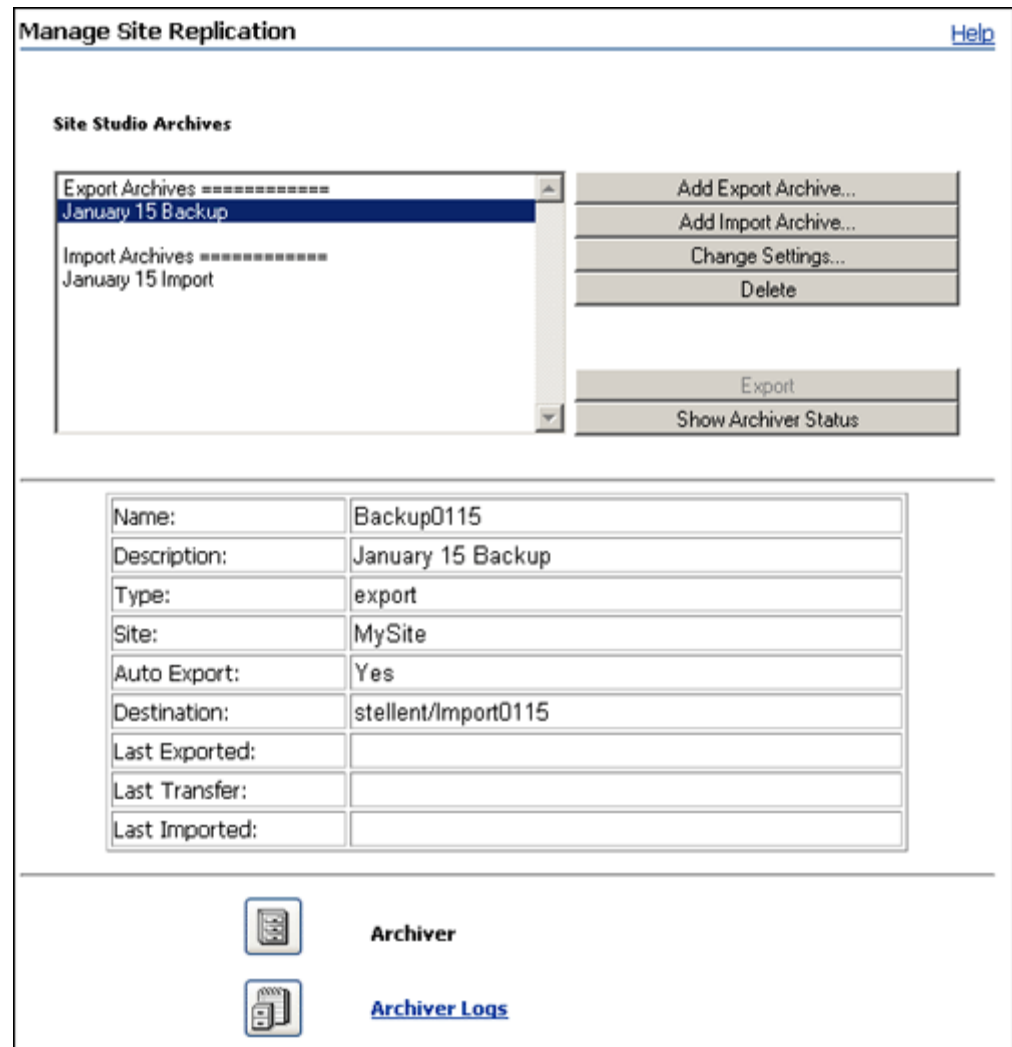
要素	説明
メタデータ・フィールド	Site Studio プロジェクト・ファイルに割り当てることができる、コンテンツ・サーバー内で使用可能なすべてのメタデータ値を表示します。 デフォルト値の情報を、適切なフィールドに入力します。すべての必須メタデータ・フィールドには、赤いフィールド・ラベルが表示されます。デフォルト情報が不要なフィールドまたは入力してはいけないフィールドは、空白のままにします。
Update	Site Studio プロジェクト・ファイルに割り当てられたメタデータを自動的に更新する場合にクリックします。
Reset	ページを起動した際の初期状態にリセットします。

## A.7 「Manage Site Replication」 ページ

「Manage Site Replication」 ページを使用して、コンテンツ・サーバー間での Web サイトのレプリケーションを管理します。このプロセス中に、ソース・サーバー上にエクスポート・ファイルを作成し、ターゲット・サーバー上にインポート・アーカイブを作成する必要があります。

この手順を実行する前に、コンテンツ・サーバーが互いに通信できるように、コンテンツ・サーバーを構成する必要があります。

図 A-11 「Manage Site Replication」 ページ



要素	説明
Site Studio Archives	コンテンツ・サーバーに現在チェックインされているすべてのエクスポートおよびインポート・アーカイブを表示します。
Add Export Archive	「Add Export Archive」 ページ (A-15 ページの「 <a href="#">Add Export Archive</a> 」 ページ) を参照) を表示して、エクスポート・アーカイブを (ソース・サーバー上に) 作成する場合にクリックします。
Add Import Archive	「Add Import Archive」 ページ (A-18 ページの「 <a href="#">Add Import Archive</a> 」 ページ) を参照) を表示して、インポート・アーカイブを (ターゲット・サーバー上に) 作成する場合にクリックします。

要素	説明
Change Settings	「Edit Export Archive」 ページ (A-16 ページの「 <a href="#">Edit Export Archive</a> ページ」を参照) または「Edit Import Archive」 ページ (A-20 ページの「 <a href="#">Edit Import Archive</a> ページ」) を表示して、既存のアーカイブのプロパティを編集する場合にクリックします。
Delete	選択したアーカイブを削除する場合にクリックします。
Export	選択したアーカイブをターゲット・サーバーにエクスポートし、レプリケーション・プロセスを開始する場合にクリックします。  アーカイブをエクスポートすると、レプリケーション・プロセスが自動化されます。ターゲット・コンテンツ・サーバーのアーカイブをインポートしたり、手動でアーカイブを転送したりする必要がありません。
Show Archiver Status	(ターゲット・サーバーにレプリケートする) 既存のアーカイブの進行状況を表示する場合にクリックします。
Archiver	このアイコンをクリックすると、コンテンツ・サーバーでアーカイバ・ユーティリティが起動します。  アーカイバおよびアーカイブ・プロセスの詳細は、Content Server のドキュメントを参照してください。
Archiver Logs	このアイコンまたはリンクをクリックすると、レビューが可能なアーカイブ・ログのリストが表示されます。  アーカイバ・ログおよび一般的なログ・ファイルの詳細は、Content Server のドキュメントを参照してください。

## A.8 「Add Export Archive」 ページ

「Add Export Archive」 ページを使用して、コンテンツ・サーバー間で Web サイトをレプリケートするプロセスで使用するエクスポート・アーカイブ・ファイルを作成します。エクスポート・アーカイブはソース・サーバー上にあり、Web サイトの情報を収集します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブは、ターゲット・サーバー上にあるインポート・アーカイブにコピーされます。

インポート・アーカイブをターゲット・サーバーに作成してから、ソース・サーバーにエクスポート・アーカイブを作成する必要があります。

図 A-12 「Add Export Archive」 ページ

The screenshot shows the 'Add Export Archive' dialog box. At the top, there is a title bar with 'Add Export Archive' and a 'Help' link. Below the title bar is a breadcrumb trail: 'Administration --> Site Studio Administration --> Manage Site Replication --> Add Export Archive'. The main area contains several input fields and options:

- Archive Type:** A dropdown menu set to 'Export'.
- Archive Name:** A text input field containing 'Site\_Archive'.
- Archive Description:** A text input field containing 'Archive of internal site'.
- Export Options:** A section header followed by:
  - Web Site:** A dropdown menu set to 'Loafer's Bakery (Loafers)'. Below it is a checkbox labeled 'Include project file in export archive' which is currently unchecked.
  - Transfer to Collection:** A dropdown menu set to 'stellent' and a button labeled 'Open Collection...'.
  - Transfer to Archive:** A dropdown menu set to 'dd'.
  - A checked checkbox labeled 'Automatically export new and changed content'.
- At the bottom, there are two buttons: 'Add Archive' and 'Cancel'.

要素	説明
Archive Type	エクスポート・アーカイブまたはインポート・アーカイブのいずれかであるかを指定します（このオプションはマークされています）。
Archive Name	アーカイブの名前。この名前は、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「 <a href="#">「Manage Site Replication」 ページ</a> 」を参照）の使用可能なアーカイブのリストに表示されます。 アーカイブ名には、空白や特殊文字を含めないでください。
Archive Description	アーカイブの説明。
Web Site	エクスポート・アーカイブを作成し、レプリケートする Web サイトを識別します。メニューから Web サイトを選択します。 <b>Include project file in export archive:</b> プロジェクト・ファイルをアーカイブに含めて、サイト全体をレプリケートする場合に、このチェック・ボックスを選択します。特定のセクションのみをレプリケートする場合は、このチェック・ボックスの選択を解除します。

要素	説明
Transfer to Collection	<p>エクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバー上にあるインポート・アーカイブのコレクションを識別します。</p> <p><b>Open Collection:</b> クリックすると、ターゲット・サーバー上のコレクションを選択するブラウザ・ダイアログが表示されます。</p>
Transfer to Archive	<p>エクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバー上にあるインポート・アーカイブを識別します。</p> <p><b>Automatically export new and changed content:</b> ソース・サーバーで変更されたコンテンツを自動的にターゲット・サーバーにレプリケートする場合に、このチェック・ボックスを選択します。このオプションを有効化しない場合は、手動でレプリケーションをトリガーする必要があります。</p>
Add Archive	<p>エクスポート・アーカイブを追加し、「Manage Site Replication」ページ (A-13 ページの「<a href="#">Manage Site Replication</a>」ページ) を参照) に戻ります。</p>
Cancel	<p>設定をキャンセルし、「Manage Site Replication」ページ (A-13 ページの「<a href="#">Manage Site Replication</a>」ページ) を参照) に戻ります。</p>

## A.9 「Edit Export Archive」 ページ

「Edit Export Archive」 ページを使用して、コンテンツ・サーバー間で Web サイトをレプリケートするプロセスで使用する既存のエクスポート・アーカイブ・ファイルのプロパティを編集します。エクスポート・アーカイブはソース・サーバー上にあり、Web サイトの情報を収集します。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブは、ターゲット・サーバー上にあるインポート・アーカイブにコピーされます。

図 A-13 「Edit Export Archive」 ページ

The screenshot shows the 'Edit Export Archive' page with the following details:

- Archive Type:** Export
- Archive Name:** Site\_Archive
- Archive Description:** Archive of internal site
- Export Options:**
  - Web Site:** Loafer's Bakery (Loafers)
  - Transfer to Collection:** stellent (with an 'Open Collection...' button)
  - Transfer to Archive:** dd
  - Automatically export new and changed content
- Buttons:** Update, Cancel

要素	説明
Archive Type	エクスポート・アーカイブまたはインポート・アーカイブのいずれであるかを指定します（このオプションはマークされています）。
Archive Name	アーカイブの名前。この名前は、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「 <a href="#">「Manage Site Replication」 ページ</a> 」を参照）の使用可能なアーカイブのリストに表示されます。 アーカイブ名には、空白や特殊文字を含めないでください。
Archive Description	アーカイブの説明。
Web Site	エクスポート・アーカイブを作成し、レプリケートする Web サイトを識別します。
Transfer to Collection	エクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバー上にあるインポート・アーカイブのコレクションを識別します。 <b>Open Collection:</b> クリックすると、ターゲット・サーバー上のコレクションを選択するブラウザ・ダイアログが表示されます。
Transfer to Archive	エクスポート・アーカイブのコピー先のターゲット・サーバー上にあるインポート・アーカイブを識別します。 <b>Automatically export new and changed content:</b> ソース・サーバーで変更されたコンテンツを自動的にターゲット・サーバーにレプリケートする場合に、このチェック・ボックスを選択します。このオプションを有効化しない場合は、手動でレプリケーションをトリガーする必要があります。
Update	エクスポート・アーカイブを更新し、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「 <a href="#">「Manage Site Replication」 ページ</a> 」を参照）に戻る場合にクリックします。
Cancel	設定をキャンセルし、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「 <a href="#">「Manage Site Replication」 ページ</a> 」を参照）に戻る場合にクリックします。

## A.10 「Add Import Archive」 ページ

「Add Import Archive」 ページを使用して、コンテンツ・サーバー間で Web サイトをレプリケートするプロセスで使用するインポート・アーカイブ・ファイルを作成します。インポート・アーカイブはターゲット・サーバー上にあります。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブのコンテンツは、インポート・アーカイブにコピーされます。次に、インポート・アーカイブのコンテンツが、ターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーされます。

図 A-14 「Add Import Archive」 ページ

要素	説明
Archive Type	インポート・アーカイブまたはエクスポート・アーカイブのいずれであるかを指定します（このオプションはマークされています）。
Archive Name	アーカイブの名前。この名前は、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「 <a href="#">Manage Site Replication</a> ページ」を参照）の使用可能なアーカイブのリストに表示されます。 アーカイブ名には、空白や特殊文字を含めないでください。
Archive Description	アーカイブの説明。
Retain switched region content on target server during import	<p>コントリビュータがターゲット Web サイト上の各リージョンに割り当てるコンテンツを保持する場合、このチェック・ボックスを選択します。これは、コントリビュータが、リージョンに最初に割り当てられたコントリビュータ・データファイルまたはネイティブ・ドキュメントを切り替えた領域です。</p> <p>通常、開発サーバー（ソース）からコントリビューション・サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合は、切り替えられたリージョン・コンテンツを保持します。このシナリオでは、コントリビュータによる変更を維持するためです。</p> <p>コントリビューション・サーバー（ソース）から消費サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合は、このオプションを無効化することがあります。このシナリオでは、消費サーバー上の変更を上書きするためです。</p>



要素	説明
Retain region content on target server during import	<p>コントリビュータがターゲット Web サイト上の各リージョンで編集するコンテンツを保持する場合、このチェック・ボックスを選択します。</p> <p>これにより、コントリビュータが編集したファイルを上書きする可能性のあるコントリビュータ・データファイルおよびネイティブ・ドキュメントが、ソース・サーバーからターゲット・サーバーにコピーされなくなります。</p> <p>通常、開発サーバー（ソース）からコントリビューション・サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合、リージョン・コンテンツを保持します。このシナリオでは、コントリビュータによる変更を保持するためです。</p> <p>コントリビューション・サーバー（ソース）から消費サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合は、このオプションを無効化することがあります。このシナリオでは、消費サーバー上の変更を上書きするためです。</p>
Add Archive	インポート・アーカイブを追加し、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「 <a href="#">Manage Site Replication</a> 」 ページ）を参照）に戻す場合にクリックします。
Cancel	設定をキャンセルし、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「 <a href="#">Manage Site Replication</a> 」 ページ）を参照）に戻す場合にクリックします。

## A.11 「Edit Import Archive」 ページ

「Edit Import Archive」 ページを使用して、コンテンツ・サーバー間で Web サイトをレプリケートするプロセスで使用する既存のインポート・アーカイブ・ファイルのプロパティを編集します。インポート・アーカイブはターゲット・サーバー上にあります。レプリケーション中に、エクスポート・アーカイブのコンテンツは、インポート・アーカイブにコピーされます。次に、インポート・アーカイブのコンテンツが、ターゲット・コンテンツ・サーバーにコピーされます。

図 A-15 「Edit Import Archive」 ページ

要素	説明
Archive Type	インポート・アーカイブまたはエクスポート・アーカイブのいずれであるかを指定します（このオプションはマークされています）。
Archive Name	アーカイブの名前。この名前は、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「 <a href="#">Manage Site Replication</a> 」 ページ）を参照）の使用可能なアーカイブのリストに表示されます。 アーカイブ名には、空白や特殊文字を含めないでください。
Archive Description	アーカイブの説明。
Retain switched region content on target server during import	<p>コントリビュータがターゲット Web サイト上の各リージョンに割り当てるコンテンツを保持する場合、このチェック・ボックスを選択します。これは、コントリビュータが、リージョンに最初に割り当てられたコントリビュータ・データファイルまたはネイティブ・ドキュメントを切り替えた領域です。</p> <p>通常、開発サーバー（ソース）からコントリビューション・サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合は、切り替えられたリージョン・コンテンツを保持します。このシナリオでは、コントリビュータによる変更を維持するためです。</p> <p>コントリビューション・サーバー（ソース）から消費サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合は、このオプションを無効化することがあります。このシナリオでは、消費サーバー上の変更を上書きするためです。</p>

要素	説明
Retain region content on target server during import	<p>コントリビュータがターゲット Web サイト上の各リージョンで編集するコンテンツを保持する場合、このチェック・ボックスを選択します。</p> <p>これにより、コントリビュータが編集したファイルを上書きする可能性のあるコントリビュータ・データファイルおよびネイティブ・ドキュメントが、ソース・サーバーからターゲット・サーバーにコピーされなくなります。</p> <p>通常、開発サーバー（ソース）からコントリビューション・サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合、リージョン・コンテンツを保持します。このシナリオでは、コントリビュータによる変更を保持するためです。</p> <p>コントリビューション・サーバー（ソース）から消費サーバー（ターゲット）にレプリケートする場合は、このオプションを無効化することがあります。このシナリオでは、消費サーバー上の変更を上書きするためです。</p>
Update	<p>インポート・アーカイブを更新し、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「<a href="#">Manage Site Replication</a> ページ」を参照）に戻る場合にクリックします。</p>
Cancel	<p>設定をキャンセルし、「Manage Site Replication」 ページ（A-13 ページの「<a href="#">Manage Site Replication</a> ページ」を参照）に戻る場合にクリックします。</p>

## A.12 「General Component Information」 ページ

「General Component Information」 ページを使用して、インストール済の Site Studio コンポーネント、Site Studio 固有のメタデータ、ディレクトリ・パス、バージョンおよびその他の情報を確認します。

図 A-16 「General Component Information」 ページ

General Component Information <a href="#">Help</a>	
Administration --> Site Studio Administration --> General Component Information	
<b>Product Version:</b>	<b>7.7.0.1</b>
<b>Component Build Version:</b>	<b>9.0.0.319</b>
<b>Disable Contribution:</b>	<b>FALSE</b>
<b>Web Site Object Type Field:</b>	<b>xWebsiteObjectType</b>
<b>Web Site ID Field:</b>	<b>xWebsiteID</b>
<b>Web Sites Field:</b>	<b>xWebsites</b>
<b>Web Site Section Field:</b>	<b>xWebsiteSection</b>
<b>Do not Show In Lists For Web Sites Field:</b>	<b>xDontShowInListsForWebsites</b>
<b>Region Definition Field:</b>	<b>xRegionDefinition</b>
<b>Relative Web Sites Root:</b>	<b>/stellent/websites/</b>
<b>Relative Fragments Root:</b>	<b>/stellent/fragments/</b>
<b>Unique Section Counter Value:</b>	<b>7</b>

要素	説明
Product Version	Site Studio コンポーネントのバージョンを表示します。
Component Build Version	Site Studio コンポーネント・バージョンの特定のビルドを表示します。
Disable Contribution	コントリビューションが無効化されているかどうかを示します (TRUE または FALSE)。
Web Site Object Type Field	Web サイト・オブジェクト・タイプに使用するメタデータ・フィールドを表示します。
Web Site ID Field	Web サイト ID に使用するメタデータ・フィールドを表示します。
Web Sites Field	Web サイト名に使用するメタデータ・フィールドを表示します。
Web Site Section Field	Web サイト・セクション名に使用するメタデータ・フィールドを表示します。
Do not Show In Lists For Web Sites Field	Web サイト・リストに表示しないサイトに使用するメタデータ・フィールドを表示します。
Region Definition Field	リージョン定義名に使用するメタデータ・フィールドを表示します。
Relative Web Sites Root	Web サイトへのパスを表示します。
Relative Fragments Root	フラグメントへのパスを表示します。
Unique Section Counter Value	サイト階層に新しく作成されたセクションに使用する ID を表示します (デザイナーがセクション ID を手動で入力しない場合)。

## A.13 「Backup and Restore」 ページ

「Backup and Restore」 ページを使用して、サイトのバックアップを作成し、バックアップ・ファイルをセキュアな場所またはポータブル・デバイスにダウンロードし、バックアップからリストアします。バックアップ機能では、Site Studio および Content Server に組み込まれた既存のアーカイブおよびレプリケート・フレームワークが使用されます。

図 A-17 「Backup and Restore」 ページ

要素	説明
Web Sites	コンテンツ・サーバーで現在使用可能なすべての既存 Web サイトを表示します。
Create Web Site Backup	選択した Web サイトのバックアップを作成する場合にクリックします。バックアップの進行状況およびステータス情報とエラー・メッセージを示すページが表示されます。
Manage Web Site Backups	「Web Site Backup Archives」 ページ (A-24 ページの「 <a href="#">Web Site Backup Archives</a> 」 ページ) を参照) を表示し、既存のバックアップを表示して、そのバックアップに様々なアクションを実行する場合にクリックします。
Backup Zip File	ファイルシステムから、アップロードする以前のバックアップを指定します。
Browse	既存のサイトのバックアップ・ファイルを選択して、コンテンツ・サーバーにアップロード (リストア) する場合にクリックします。

要素	説明
Upload Backup Archive	ファイルシステムからコンテンツ・サーバーに、バックアップをアップロード（リストア）します。バックアップの進行状況およびステータス情報とエラー・メッセージを示すページが表示されます。

## A.14 「Web Site Backup Archives」 ページ

「Web Site Backup Archives」 ページを使用して、既存の Web サイト・バックアップを管理します。既存のバックアップの表示、バックアップのダウンロード、バックアップからのリストアおよびバックアップの削除ができます。

図 A-18 「Web Site Backup Archives」 ページ

Web Site Backup Archives			<a href="#">Help</a>
Web Site	Archive Name	Backup Export Date	Actions
11gr2	11gr2_2007_12_03_13_10_06_255	12/3/07 1:10 PM	
Zen	restore_2007_08_22_15_38_10_534	8/22/07 3:31 PM	
ZenJSP	restore_2007_08_23_13_37_39_673	8/23/07 1:27 PM	
RVH	restore_2007_10_03_13_41_56_559	3/21/06 10:04 AM	
SimpleCSS	SimpleCSS_2007_10_02_11_16_44_969	10/2/07 11:16 AM	
Zen	Zen_2007_08_23_12_06_51_521	8/23/07 12:06 PM	
Zen	Zen_2007_08_27_10_16_55_951	8/27/07 10:16 AM	
ZenASP	ZenASP_2007_11_30_15_06_43_690	11/30/07 3:06 PM	
ZenJSP	ZenJSP_2007_08_27_08_54_47_155	8/27/07 8:54 AM	

要素	説明
Web Site	バックアップされた Web サイトの名前を表示します。
Archive Name	バックアップで使用されたアーカイブの名前を表示します。
Backup Export Date	バックアップが作成された日付および時間を表示します。
	このアイコンをクリックすると、複数のオプションが表示されたアクション・メニューが開きます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Download backup archive as ZIP:</b> バックアップの ZIP ファイルを作成し、コンピュータにダウンロードします。</li> <li>■ <b>Delete backup archive:</b> バックアップをコンテンツ・サーバーから削除します。</li> <li>■ <b>Restore backup archive contents:</b> Web サイトをバックアップからコンテンツ・サーバーにリストアします。</li> <li>■ <b>Show server configuration details:</b> 「Server Configuration Details」 ページ (A-26 ページの「<a href="#">Server Configuration Details</a>」 ページ) を参照) を表示し、特定のサイトのコンテンツ・サーバー環境を確認できます。</li> </ul>
	このアイコンをクリックすると、「Backup Archive Information」 ページ (A-25 ページの「 <a href="#">Backup Archive Information</a> 」 ページ) を参照) が表示されます。このページには、アーカイブ名、説明、Web サイトおよび作成日などを含むバックアップの詳細が表示されます。

このページの列のサイズを変更して各カテゴリを表示するには、マウスを枠線の上に置いて二重矢印に変更し、次にマウスをドラッグして列のサイズを変更します。

## A.15 「Backup Archive Information」 ページ

「Backup Archive Information」 ページには、アーカイブ名、説明、Web サイトおよび作成日などを含むバックアップの詳細が表示されます。

図 A-19 「Backup Archive Information」 ページ

Batch File	Instance Name	Number	State
06-mar-21_10.04.03_083/0680100403~1.hda	rvh	346	NEW

### 要素

### 説明

Actions (メニュー)

**Show server configuration details:** 「Server Configuration Details」ページ (A-26 ページの「[Server Configuration Details](#)」ページ) を参照) が表示され、特定のサイトのコンテンツ・サーバー環境を確認できます。

**Download backup archive as ZIP:** バックアップの ZIP ファイルを作成し、ファイルシステムにダウンロードします。

**Restore backup archive contents:** Web サイトをバックアップからコンテンツ・サーバーにリストアします。

**Delete backup archive:** バックアップをコンテンツ・サーバーから削除します。

バックアップ情報フィールド

このフィールドには、アーカイブ名、アーカイブの説明、Web サイトおよび作成日などを含むバックアップの詳細が表示されます。

Batch Files

バックアップで使用されたバッチ・ファイルの詳細を表示します。

このページの列のサイズを変更して各カテゴリを表示するには、マウスを枠線の上に置いて二重矢印に変更し、次にマウスをドラッグして列のサイズを変更します。

## A.16 「Server Configuration Details」 ページ

「Server Configuration Details」 ページには、バックアップ時にバックアップされた Web サイトが置かれたコンテンツ・サーバーの詳細な構成情報が表示されます。この情報には、カスタム・メタデータ・フィールド、コンテンツ・タイプ、セキュリティ・グループ、構成および環境設定、インストールされたコンポーネント、定義されたプロバイダなどが含まれます。これは、リストア前に、特定のサイトのコンテンツ・サーバー環境を確認する必要がある場合に役に立ちます。

図 A-20 「Server Configuration Details」 ページ

Server Configuration Details <a href="#">Help</a>										
DocMetaDefinition										
dName	dType	disRequire	disEnabled	disSearch	dCaption	disOptionL	dOptionLis	dDefaultVa	dOrder	dOptionLis
xCommen	Memo	0	1	1	Comments	0			1	
xDonkSho	Memo	0	1	1	Exclude Fr	0			45	
xTemplate	Text	0	1	0	TemplateT	1	TemplateT		43	combo
xWebsite	Text	0	1	1	Web Site	1	WebsiteOf		43	choice
xWebsite:	Memo	0	1	1	Web Sites	0			45	
xWebsite:	BigText	0	1	1	Web Site :	0			47	

OptionsList		
dKey	dOption	dOrder
TemplateTypeList	GUI Template	1
TemplateTypeList	Layout Template	2
TemplateTypeList	Script Template	3
TemplateTypeList	Wireless Template	4
WebsiteObjectTypeList		1
WebsiteObjectTypeList	Data File	2
WebsiteObjectTypeList	Layout File	3
WebsiteObjectTypeList	Native Document	4

要素	説明
DocMetaDefinition	コンテンツ・サーバーで使用されたドキュメント・タイプを表示します。
OptionsList	コンテンツ・サーバーで使用されたオプション・リストを表示します。
QdocTypes	コンテンツ・サーバーで使用されたデフォルトのコンテンツ・タイプを表示します。
Qroles	コンテンツ・サーバーで使用されたユーザーを表示します。
QsecurityGroups	コンテンツ・サーバーで使用されたセキュリティ・グループを表示します。
DocFormats	コンテンツ・サーバーで使用されたコンテンツ・フォーマットを表示します。
ConfigCfg	コンテンツ・サーバーで使用された構成設定を表示します。
GeneralConfig	コンテンツ・サーバーで使用された一般構成設定を表示します。
ServerEnvironment	コンテンツ・サーバーで使用されたサーバー環境を表示します。



要素	説明
ComponentConfiguration	コンテンツ・サーバーで使用されたインストール済コンポーネントおよびその設定を表示します。
Providers	コンテンツ・サーバーで使用されたプロバイダを表示します。

特定のカテゴリを開いて別のページで表示するには、カテゴリのヘッダーをクリックします。

このページの列のサイズを変更して各カテゴリを表示するには、マウスを枠線の上に置いて二重矢印に変更し、次にマウスをドラッグして列のサイズを変更します。



---

---

# 索引

## A

---

「Add Export Archive」 ページ, A-15  
「Add Import Archive」 ページ, A-18  
「Add New Section」 ダイアログ, 2-4

## B

---

「Backup and Restore」 ページ, A-23  
「Backup Archive Information」 ページ, A-25

## C

---

Content Server  
  JSP の構成, 4-3  
  コンポーネント, 1-2  
  フラグメント・ライブラリの場所, 4-2, A-11  
Content Server のコンポーネント, 1-2  
Custom Properties, 2-11

## E

---

「Edit Export Archive」 ページ, A-16  
「Edit Import Archive」 ページ, A-20

## G

---

「General Component Information」 ページ, A-22

## J

---

JSP サポート・ファイル, 4-3  
JSP フラグメント, 4-3  
JSP フラグメントの構成, 4-3

## M

---

「Manage Fragment Libraries」 ページ, A-11  
「Manage Site Replication」 ページ, A-13  
「Manage Site」 ページ, A-3  
  「Custom Properties」 タブ, A-8  
  「Page Template」 タブ, A-6  
  「Secondary Page Template」 タブ, A-7  
  「Section」 タブ, A-4  
「Manage Site」 ページの「Custom Properties」 タブ, A-8  
「Manage Site」 ページの「Page Template」 タブ, A-6

「Manage Site」 ページの「Secondary Page Template」 タブ, A-7  
「Manage Site」 ページの「Section」 タブ, A-4  
「Manage Web Sites」 ページ, A-2

## S

---

「Server Configuration Details」 ページ, A-26  
「Set Default Project Document Information」 ページ, A-12

Site Studio, 1-2

  管理, 1-7  
  公開モデル, 1-3  
  コントリビュータ, 1-2, 1-6  
  デザイナー, 1-2, 1-3  
  バージョン情報, 8-1, A-22  
  マネージャ, 1-2, 1-5  
  ユーザー, 1-3

Site Studio 管理ページ, 1-7

Site Studio デザイナ, 「コントリビュータ (アプリケーション)」を参照

Site Studio デザイナ, 「デザイナー (アプリケーション)」を参照

Site Studio デザイナ, 「マネージャ (アプリケーション)」を参照

Site Studio の管理, 1-7

Site Studio マネージャの開始, 2-4

Site Studio マネージャの起動, 2-4

## U

---

URL ディレクトリ名, 2-10, A-5  
URL ページ名, 2-10, A-5  
URL またはサイト・セクションの変更, 2-10

## W

---

「Web Site Addresses」 ページ, A-10  
「Web Site Backup Archives」 ページ, A-24  
「Web Site Objects Report」 ページ, A-9  
Web サイト  
  Custom Properties, 2-11  
  アドレス, 3-2, A-10  
  エラー・ハンドラ・セクション, 2-9  
  開始, 2-14  
  コントリビュータ専用セクション, 2-9  
  セクションの移動, 2-5, 2-6  
  セクションの外部 URL, 2-12

- セクションの最大経過時間, 2-10
- セクションのセカンダリ・ページ, 2-13
- セクションの追加, 2-4
- セクションの非表示, 2-8
- セクションの表示, 2-8
- セクションのプライマリ・ページ, 2-12
- セクションまたはページの URL, 2-10
- セクション名の変更, 2-7
- 停止, 2-14
- ナビゲーション, 2-2
- バックアップ, 7-2
- 表示, 2-2
- ページ・テンプレートの削除, 2-13
- リストア, 7-4
- レプリケーション, 6-2, A-13
- ロード, 2-15
- Web サイト・アドレス, 3-2, A-10
  - 削除, 3-4
  - 選択, 3-3
  - 選択解除, 3-3
  - 追加, 3-2
- Web サイト・アドレスの管理, 3-1
- Web サイト・アドレスの削除, 3-4
- Web サイト・アドレスの選択, 3-3
- Web サイト・アドレスの選択解除, 3-3
- Web サイト・アドレスの追加, 3-2
- Web サイト・オブジェクトのレポート, 2-3, A-9
- Web サイト・オブジェクト・レポートの表示, 2-3
- Web サイトのアドレス, 3-2, A-10
  - 削除, 3-4
  - 選択, 3-3
  - 選択解除, 3-3
  - 追加, 3-2
- Web サイトの開始, 2-14
- Web サイトの管理
  - Web サイト管理, 2-2
- Web サイトの停止, 2-14
- Web サイトの表示, 2-2
- Web サイトのロード, 2-15

## あ

---

- アーカイバ・ステータス, A-14
- アーカイバのステータス, A-14
- アーカイブ
  - インポート, 6-6, A-18, A-20
  - エクスポート, 6-7, A-15, A-16
- 新しいコンテンツおよび変更されたコンテンツのエクスポート, 6-8
- 新しいコンテンツおよび変更されたコンテンツの自動エクスポート, 6-8

## い

---

- 一般コンポーネント情報, 8-1, A-22
- 一般コンポーネント情報の表示, 8-2
- インタフェース
  - 「Add Export Archive」ページ, A-15
  - 「Add Import Archive」ページ, A-18
  - 「Add New Section」ダイアログ, 2-4
  - 「Backup and Restore」ページ, A-23
  - 「Backup Archive Information」ページ, A-25

- 「Edit Import Archive」ページ, A-20
- 「General Component Information」ページ, A-22
- Manage Fragment Libraries, A-11
- 「Manage Site Replication」ページ, A-13
- 「Manage Site」ページ, A-3
- 「Manage Web Sites」ページ, A-2
- 「Server Configuration Details」ページ, A-26
- 「Set Default Project Document Information」ページ, A-12
- Site Studio 管理ページ, 1-7
- 「Web Site Addresses」ページ, A-10
- 「Web Site Backup Archives」ページ, A-24
- 「Web Site Objects Report」ページ, A-9
- エクスポート・アーカイブの編集, A-16
- インポート・アーカイブ, 6-6, A-18, A-20

## え

---

- エクスポート・アーカイブ, 6-7, A-15, A-16
- エクスポート・アーカイブに含めるプロジェクト・ファイル, 6-8
- エラー・ハンドラ・サイト・セクション, 2-9
- エラー・ハンドラとしてのセクションの指定, 2-9

## か

---

- 階層, 「サイト階層」を参照
- 外部 URL, 2-12
- カスタム・プロパティ (セクション), A-8
- 管理者, 1-3, 1-7

## き

---

- キャッシュ, 2-10, A-5

## こ

---

- 公開モデル, 1-3
  - 完成したサイトのプレビューおよび配置, 1-7
  - コントリビュータでのコンテンツの追加および編集, 1-6
  - デザインでのサイト作成, 1-3
  - マネージャでのサイト管理, 1-5
- コントリビュータ (アプリケーション), 1-2, 1-6
- コントリビュータ (ユーザー), 1-3, 1-6
- コントリビュータ専用サイト・セクション, 2-9
- コントリビュータ専用としてのセクションの指定, 2-9
- コントリビュータ・データファイル, 1-6
- コンポーネント情報, 8-1, A-22

## く

---

- 最大経過時間, 2-10, A-5
- サイト, 「Web サイト」も参照
- サイト・アドレス, 3-2, A-10
  - 削除, 3-4
  - 選択, 3-3
  - 選択解除, 3-3
  - 追加, 3-2
- サイト・オブジェクト・レポート, 2-3, A-9
- サイト階層, A-3
  - エラー・ハンドラ・セクション, 2-9
  - 外部 URL, 2-12

- コントリビュータ専用セクション, 2-9
- セクションノ URL, 2-10
- セクションの移動, 2-6
- セクションの最大経過時間, 2-10
- セクションの削除, 2-5
- セクションのセカンダリ・ページ, 2-13
- セクションの追加, 2-4
- セクションの非表示, 2-8
- セクションの表示, 2-8
- セクションのプライマリ・ページ, 2-12
- セクションの編集, 2-7
- セクション名の変更, 2-7
- ページ・テンプレートの削除, 2-13
- サイト・コントリビュータ, 「コントリビュータ (ユーザー)」を参照
- サイト・セクションまたはページの URL, 2-10
- サイト・デザイナー, 「デザイナー (ユーザー)」を参照
- サイト・ナビゲーションの更新, 2-2
- サイトのインポート, 6-2
- サイトのエクスポート, 6-2
- サイトのオブジェクト・レポート, 2-3, A-9
- サイトの公開, 1-7
- サイトの転送, 6-3
- サイトのナビゲーション, 2-2
- サイトの配置, 1-7
- サイトのバックアップ, 7-2
- サイトのプレビュー, 1-7
- サイトのリストア, 7-4
- サイト・マネージャ, 「マネージャ (ユーザー)」を参照
- サイト・レプリケーション, 「レプリケーション」を参照
- サイト・レプリケーションの管理, 6-1

## し

使用状況の詳細, 2-3, A-9

## せ

- セカンダリ・ページ・テンプレート (セクション), A-7
- セクション
  - Custom Properties, A-8
  - URL, 2-10
  - URL ディレクトリ名, A-5
  - URL ページ名, A-5
  - 移動, 2-6
  - エラー・ハンドラ, 2-9
  - 外部 URL の割当て, 2-12
  - コントリビュータ専用, 2-9
  - 最大経過時間, 2-10, A-5
  - 削除, 2-5
  - セカンダリ・ページ・テンプレート, A-7
  - セカンダリ・ページの割当て, 2-13
  - 追加, 2-4
  - 名前の変更, 2-7
  - 非表示, 2-8
  - 表示, 2-8
  - プライマリ・ページの割当て, 2-12
  - ページ・テンプレート, A-6
  - ページ・テンプレートの削除, 2-13
  - 編集, 2-7
- セクションからのページ・テンプレートの削除, 2-13
- セクションの移動, 2-6

- セクションの最大経過時間の変更, 2-10
- セクションの削除, 2-5
- セクションの追加, 2-4
- セクションのドラッグ・アンド・ドロップ, 2-6
- セクションの非表示, 2-8
- セクションの表示, 2-8
- セクションの編集, 2-7
- セクションへの外部 URL の割当て, 2-12
- セクションへのセカンダリ・ページの割当て, 2-13
- セクションへのプライマリ・ページの割当て, 2-12
- セクション名の変更, 2-7

## そ

ソース・サーバー上での送信プロバイダの設定, 6-5

## た

- ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブの設定, 6-6
- ターゲット・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの設定, 6-7

## て

- データファイル, 「コントリビュータ・データファイル」を参照
- デザイナー (アプリケーション), 1-2, 1-3
- デザイナー (ユーザー), 1-3
- デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報, 5-2, A-12
- 設定, 5-2
- デフォルトのプロジェクト・ドキュメント情報の設定, 5-2

## と

ドメイン・サイト・アドレス, 3-2, A-10

## ね

ネイティブ・ドキュメント, 1-6

## は

- バージョン情報, 8-1, A-22
- バージョンの情報, 8-1, A-22
- 場所
  - フラグメント・ライブラリ (コンテンツ・サーバー上), 4-2, A-11
- バックアップ, 7-2
  - サーバー構成, 7-6
- バックアップのサーバー構成, 7-6
- バックアップの進行状況, 7-3
- バックアップのソース・サーバー, 7-6

## ふ

フォルダ・サイト・アドレス, 3-2, A-10  
フラグメント, 4-2, A-11  
フラグメントのライブラリ, 4-2, A-11  
    デプロイ, 4-2  
フラグメント・ライブラリ, 4-2, A-11  
    デプロイ, 4-2  
フラグメント・ライブラリの管理, 4-1  
フラグメント・ライブラリのデプロイ, 4-2  
プロジェクト・ドキュメント情報, 5-2, A-12  
プロジェクト・ファイル, 5-2, A-12  
    レプリケーション, 6-8  
プロジェクト・ファイルのメタデータ, 5-2, A-12  
プロバイダ  
    送信, 6-5

## へ

ページ・テンプレート, 2-11  
    コンテンツ情報ページ, 2-14  
    削除, サイト・セクション, 2-13  
ページ・テンプレート (セクション), A-6  
ページ・テンプレートのコンテンツ情報ページ, 2-14  
ページ・テンプレートのプレビュー, 2-11

## ま

マネージャ (アプリケーション), 1-2, 1-5, A-3  
    「Custom Properties」タブ, A-8  
    「Page Template」タブ, A-6  
    「Secondary Page Template」タブ, A-7  
    「Section」タブ, A-4  
エラー・ハンドラとしてのセクションの指定, 2-9  
カスタム・プロパティの変更, 2-11  
起動, 2-4  
    コントリビュータ専用としてのセクションの指定,  
        2-9  
使用, 2-3  
    セクションからのページ・テンプレートの削除, 2-13  
    セクションの移動, 2-6  
    セクションの最大経過時間, 2-10  
    セクションの削除, 2-5  
    セクションの追加, 2-4  
    セクションの非表示, 2-8  
    セクションの表示, 2-8  
    セクションの編集, 2-7  
    セクションへの外部 URL の割当て, 2-12  
    セクションへのセカンダリ・ページの割当て, 2-13  
    セクションへのプライマリ・ページの割当て, 2-12  
    セクションまたはページの URL の変更, 2-10  
    セクション名の変更, 2-7  
    ページ・テンプレートのプレビュー, 2-11  
マネージャ (ユーザー), 1-3, 1-5

## ゆ

ユーザー  
    管理者, 1-3  
    コントリビュータ, 1-3, 1-6  
    デザイナー, 1-3  
    マネージャ, 1-3, 1-5  
ユーザー, タイプ, 1-3  
ユーザー・インタフェース, 「インタフェース」も参照  
ユーザーのタイプ, 1-3

## り

リストアの進行状況, 7-5

## れ

レイアウト・ページ, 「ページ・テンプレート」を参照  
レプリケーション, 6-2, A-13  
    新しいコンテンツおよび変更されたコンテンツの自動  
        エクスポート, 6-8  
    インポート, 6-2  
    エクスポート, 6-2  
    エクスポート・アーカイブに含めるプロジェクト・  
        ファイル, 6-8  
    エクスポート設定, 6-4  
    開始, 6-8  
    切り替えられたリージョン・コンテンツの保持, 6-6  
    サイトのコンテンツ, 6-3  
    ソース・サーバー上でのエクスポート・アーカイブの  
        設定, 6-7  
    ソース・サーバー上での送信プロバイダの設定, 6-5  
    ターゲット・サーバー上でのインポート・アーカイブ  
        の設定, 6-6  
    ターゲット・サーバーの構成, 6-4  
    転送, 6-3  
    範囲, 6-3  
    ファイルのリビジョン, 6-3  
    プロセス, 6-2  
    リージョン・コンテンツの保持, 6-7  
レプリケーションで切り替えられたリージョン・コンテ  
    ンツのホジ, 6-6  
レプリケーションに含まれるファイル, 6-3  
レプリケーションに含まれるファイルのリビジョン, 6-3  
レプリケーションの新しいコンテンツ, 6-8  
レプリケーションのエクスポート設定, 6-4  
レプリケーションの開始, 6-8  
レプリケーションのターゲット・サーバー, 6-4  
レプリケーションのプロセス, 6-2  
レプリケーションの変更されたコンテンツ, 6-8  
レプリケーションのリージョン・コンテンツの保持, 6-7  
レプリケーション用の送信プロバイダ, 6-5  
レプリケーション用のソース・サーバー, 6-5, 6-7  
レプリケーション用のターゲット・サーバー, 6-6  
レプリケーション用のターゲット・サーバーの構成, 6-4